

埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書

－令和 6 年度－

2 0 2 5

千葉市教育委員会

例 言

- 1 千葉市では、市内の開発事業に先立ち、遺跡の内容や性格を把握することを目的とした発掘調査を実施しており、本書はその成果をまとめた市内遺跡埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 市内遺跡とは、市内に所在する旧石器時代から中世に至る遺物散布地・貝塚・集落跡・古墳・塚・城館跡等を包括したものである。
- 3 発掘調査は千葉市教育委員会が主体となり、国庫補助金と市費により実施した。報告書は市費により刊行した。
- 4 事業主体及び調査組織は次のとおりである。

教育委員会事務局	教 育 長	鶴岡 克彦
	教育次長	秋幡 浩明
生涯学習部	部 長	齋木 久美子
文化財課	課 長	君塚 常行
	課長補佐	森本 剛
特別史跡推進班	主任主事	服部 智至
	主 事	井上 奈穂子
文化財保護班	主 査	中尾 麻子
	主任主事	米倉 貴之
	主 事	石川 茜
	主 事	飯島 史尊
新博物館準備室	室 長	蚊谷 友浩
	主任主事	武田 芳雅
	主任技師	永井 明男
埋蔵文化財調査センター		
	所 長	西野 雅人
	主 査	白根 義久
	主任主事	松田 光太郎
	主任主事	佐藤 洋
	主 事	千葉 南菜子
	主 事	大内 美海
	会計年度任用職員	難波 美由紀
	会計年度任用職員	忍澤 成視
	会計年度任用職員	井上 賢
	会計年度任用職員	戸村 正己
	会計年度任用職員	岸本 高充

- 5 本書は各調査担当者が執筆したが、矢作貝塚①・②については千葉南菜子、笹目沢遺跡・西花遺跡①は佐藤洋が執筆した。編集は佐藤洋と岸本高充が行った。
- 6 出土遺物については、各担当者が西野雅人、井上賢、岸本高充の協力の元に分類と執筆をおこなった。
- 7 出土遺物及び記録類等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

- 1 本書に掲載している地図で使用した背景図の出典は以下の通りである。
発掘調査遺跡位置図 1/150,000 国土地理院基盤地図情報 10m メッシュより生成
遺跡位置図 1/10,000、1/8,000、1/2,500 千葉市基本図（デジタルデータ）
- 2 第1図 発掘調査遺跡位置図の座標値は巻末の報告書抄録との整合から地理学座標系（世界測地系）とし、経緯度で表示した。
- 3 本書に掲載している挿図の縮尺は各図に示している。記載のないものは任意である。
- 4 発掘調査は重機掘削が可能ところまでは重機を使用し、トレンチの壁面や包含層の掘削、遺構の検出などは人力掘削で実施した。

目 次

例言

凡例

目次

表1：発掘調査概要一覧

第1図：発掘調査遺跡位置図

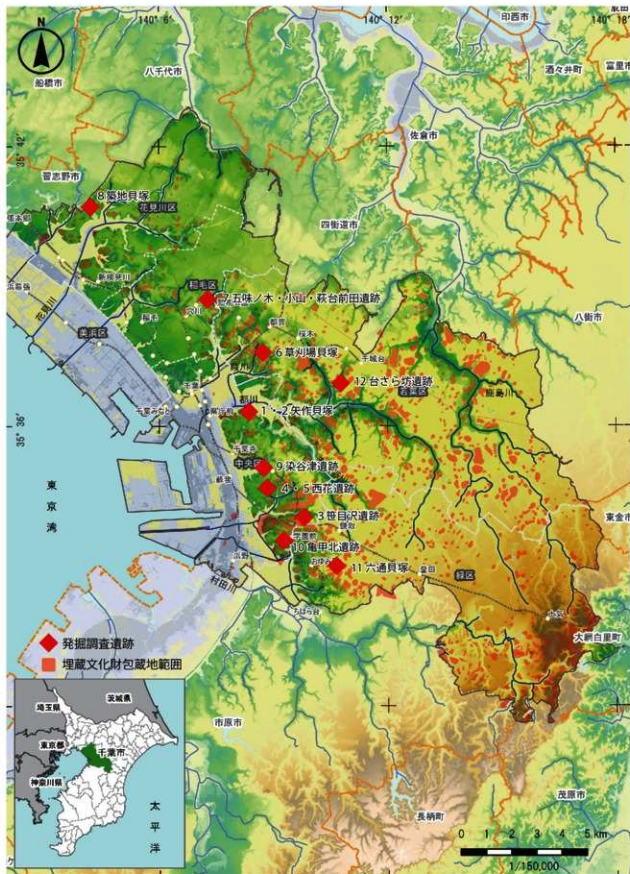
1	矢作貝塚①	1
2	矢作貝塚②	6
3	笹目沢遺跡	8
4	西花遺跡①	12
5	西花遺跡②	15
6	草刈場貝塚	18
7	五味ノ木遺跡・小山遺跡・萩台前田遺跡	23
8	築地貝塚	31
9	築谷津遺跡	41
10	亀甲北遺跡	44
11	六通貝塚	47
12	台さら坊遺跡	50

巻末

表1：発掘調査概要一覧

	遺跡名 遺跡番号	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
1	矢作員塚 中央-19	確認調査	5千教壇セ第180号	2023年8月17日～9月11日	51㎡	木口 裕史
		市庫費	中央区矢作町668、669、670、671、679、680	自家用発電設備の建設	千葉県金業局	
2	矢作員塚 中央-19	確認調査	5千教壇セ第297号	2023年10月24日～11月14日	87.36㎡ (620㎡)	山下 亮介
		国庫補助	中央区矢作町631-1、658の各一部	宅地造成	和興産業株式会社	
3	笹目沢遺跡 中央-131	確認調査	5千教壇セ第370号	2023年12月15日～2024年3月22日	1,040㎡ (12,000㎡)	白根 義久
		国庫補助 市庫費	中央区生実町2721ほか	工業団地造成	エム・ケー株式会社	
4	西花遺跡 中央-74	確認調査	5千教壇セ第404号	2023年12月19日～12月28日	98.88㎡ (945.94㎡)	山下 亮介
		国庫補助	中央区大森町74番地	集合住宅建設	個人	
5	西花遺跡 中央-74	確認調査	5千教壇セ第513号	2024年4月23日～4月26日	30㎡ (307㎡)	佐藤 洋
		国庫補助	中央区大森町174番地1	集合住宅建設	個人	
6	草刈場員塚 若葉-61	確認調査	4千教壇セ第391号	2024年3月29日～4月2日	10.10㎡ (14.50㎡)	松田 光太郎
		市庫費	若葉区員塚町973-1の一部	倉庫建設	有限会社チバニータウン開発	
7	五味ノ木遺跡 稲毛-60 小山遺跡・萩台前田遺跡 稲毛-54-59	確認調査	5千教壇セ第501号	2024年2月13日～3月29日	300㎡ (3,000㎡)	佐藤 洋
		市庫費	稲毛区萩台町360-5外4筆	宅地造成	大東建託株式会社	
		確認調査	5千教壇セ第501号	2024年5月17日～8月30日	1738.3㎡ (17,800㎡)	千葉 南菜子
8	築地員塚 花見川-30	確認調査 本調査	5千教壇セ第393号	(確認調査)2023年12月5日～12月15日 (本調査R5)2024年2月1日～3月21日 (本調査R6)2024年4月26日～7月16日	【確認調査】 11㎡ (129.92㎡) 【本調査】 129.92㎡	松田 光太郎
		国庫補助	花見川区長作町344番5の一部	個人住宅	個人	
9	染谷津遺跡 中央-63	確認調査	6千教壇セ第44号	2024年6月24日～7月10日	147㎡ (1733㎡)	佐藤 洋
		国庫補助	中央区宮崎町546-13	宅地造成	個人	
10	亀甲北遺跡 中央-136	確認調査	6千教壇セ第16号	2024年5月27日～6月4日	80㎡ (1,085.29㎡)	佐藤 洋
		国庫補助	中央区南生実町1310-2、1310-5	宅地造成	創建住販株式会社	
11	六通員塚 緑-36	確認調査	6千教壇セ第102号	2024年6月4日	8㎡ (110.16㎡)	佐藤 洋
		国庫補助	緑区おゆみ野中央7丁目12-32	個人住宅建設	個人	
12	台さら坊遺跡 若葉-159	確認調査	6千教壇セ第78号	2024年9月30日～11月11日	382.5㎡ (3879.1㎡)	千葉 南菜子
		市庫費	若葉区坂月町323-55、355-2、355-3、325の一部および323-55～326地先赤道	宅地造成	株式会社千葉東建設	

*調査面積の下段()内は事業面積



第1図：発掘調査遺跡位置図

1. 矢作貝塚①

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の理由	原因者	
1	やはがたいづか 矢作貝塚	確認調査	5千教理セ第180号	2023年8月17日～9月11日	51㎡	木口 裕史
		市庫費	中央区矢作町668、669、670、671、679、680	自家発電設備の建設	千葉県企業局	

* 調査面積の下段()内は事業面積



第2図 矢作貝塚位置図

(1) 調査に至る経緯

令和5年6月27日付けで千葉県企業局施設整備センターより自家発電施設の建設にかかる文化財保護法第94条に基づく通知がなされた。本貝塚は昭和55年度・平成3年度に公益財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施している。今回の事業予定地が発掘調査地点に隣接していることから、発掘調査が必要な旨を回答し、確認調査の実施ということで協議が整い、確認調査を実施した。

(2) 調査成果

矢作貝塚は、東西に流れる都川を北に臨む標高約26mの台地上に立地する、直径100mを超える馬蹄形貝塚である。これまでの調査で縄文時代後期(堀之内式期)を中心とし、縄文時代晩期に至る集落と判明している。昭和10年に千葉浄水場の敷地となり、同敷地内には国登録有形文化財の千葉高架水槽と千葉分場第1号配水池がある。記録に残っている組織的な発掘はこれまでに5回実施されている。昭和12・19年の調査では埋葬人骨を多数検出し、昭和32年には貝層の測量が行われた。昭和55年度・平成3年度の調査では竪穴住居跡や埋葬人骨、埋葬犬を検出し、遺構は縄文時代だけではなく古墳時代後期の遺構も確認された。この結果、矢作貝塚は縄文時代だけではなく古墳時代の集落であることも判明した。

今回の対象地は遺跡範囲の北西部に位置し、調査はトレンチを19か所設定し、遺構等の確認作業を実施した。調査の結果、調査区の北側および南側で縄文時代の竪穴住居跡4軒とピット6基を

検出した。

各トレンチの基本的な層序は、1：表土・近現代の盛土（混貝土層）、2：混土貝層・黒褐色土層、3：明褐色土層（ソフトローム層）からなる。貝層の保存状態が良好な4か所からサンプルを採取し分析を行った。分析の報告は別途行う予定である。

（3）出土遺物

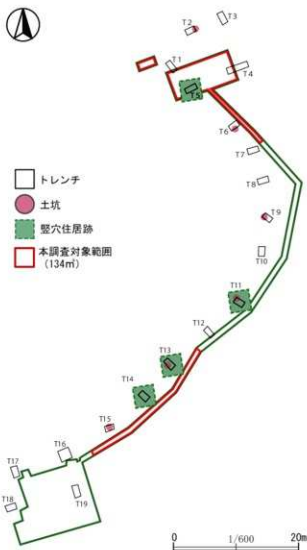
遺物は1トレンチから15トレンチで出土しており、縄文土器662点、土師器・須恵器135点を数える。縄文土器のうち年代の比定が可能であったのは147点で、内訳は早期後葉1点、前期前葉1点、堀之内式49点、加曽利B式37点、後期安行式35点、晩期安行式24点である。

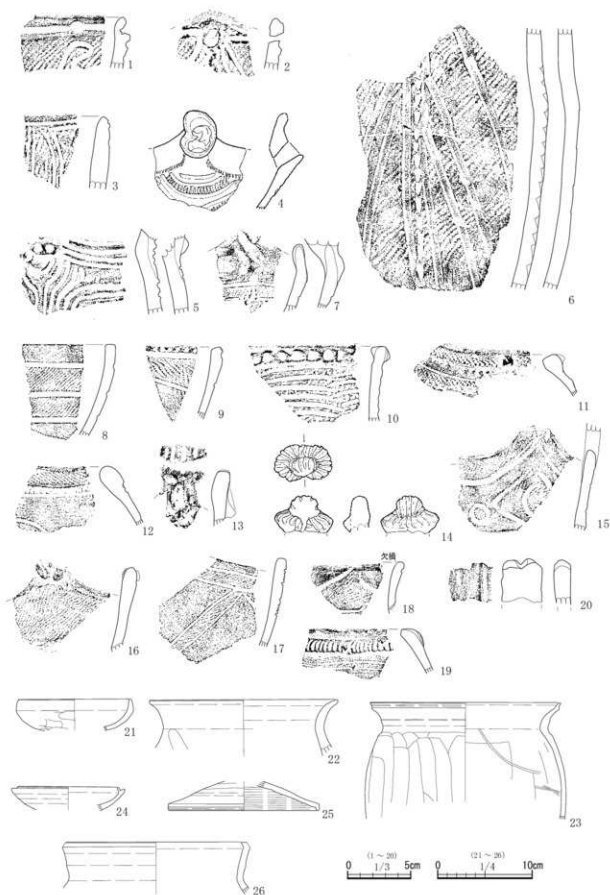
土師器・須恵器の年代は古墳時代後期に比定される。出土分布をみると、1トレンチ（22点）と5トレンチ（67点）に集中している。5トレンチからは支脚が出土しており、検出された竪穴住居跡は古墳時代以降の可能性が高い。支脚片は遺存状態が不良のため図化ができなかった。また、11・12トレンチからは土師器大破片を含む15点が出土しており、この2地点に遺構が存在する可能性が高い。

土製品は土器片（No.20）が1点あり、素材は堀之内式土器の破片と推定される。石器は磨石類4点、石核1点、礫3点、軽石類1点がある。貝製品はハマグリ製へら状貝製品1点（No.38）がある。動物骨は1・3・5・9～11トレンチで検出し、分析の報告は別途行う予定である。

（4）今後の取り扱い

確認調査の結果、事業面積480㎡の約28%にあたる約134㎡が本調査対象範囲となった。遺構が検出されているが、遺構検出面までの深度が深く、工事の影響を受けない箇所は本調査範囲から除外した。自家発電施設と埋設ケーブルの工事範囲は、埋蔵文化財への影響が避けられないため令和6年8月9日より、公益財団法人千葉市教育振興財団によって本調査が実施されている。この調査については令和8年度末に報告書を刊行する予定である。







1 トレンチ (貝層)



6 トレンチ (貝層)



14 トレンチ (土坑、貝層)



13 トレンチ (土坑、貝層)

表2 遺物観察表

№	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	縄文	土器		口縁	T5	堀之内。口縁部は竹管状工具による割突後、縁取るようにナデを加えて、沈線を描する。
2	縄文	土器		口縁	T3	堀之内。波頂部に円孔を有する。縄文LRを地文として、沈線を施す。
3	縄文	土器		口縁	T14	堀之内。縄文LRを地文として、平行沈線により懸垂文を施す。
4	縄文	土器	注口土器		T13	堀之内。注口上部に勾玉状（柳長の「つ」字）に沈線を施す。
5	縄文	土器			T3	堀之内。8の字状の貼付文が横位に施される。外面に粘土を補填した痕跡が割れ口で残る。
6	縄文	土器			T11	堀之内。沈線文は半截竹管状工具の内面によるもので、押引文は別の竹管状工具を用いている。
7	縄文	土器		口縁	T5	加賀利B。波頂部に蛇行する貼り付けを有する。縄文LRによる充填縄文。
8	縄文	土器		口縁	T10	加賀利B。縄文LRによる充填縄文。
9	縄文	土器		口縁	T6	加賀利B。やや肥厚する口唇直下に連続押捺。縄文RL充填後、磨消あり。
10	縄文	土器	粗製土器	口縁	T5	加賀利B。口唇直下に細線文、その内面に太沈線が走る。粗い縄文地に横位の緩やかな弧状沈線。
11	縄文	土器		口縁	T5	安行1。上位の帯縄文上には瘤状の貼付文が加えられる。帯縄文下縁には連続刺突文が併走する。
12	縄文	土器		口縁	T1	安行。帯縄文下縁を沈線と連続刺突文が併走する。破片下縁には弧状沈線と縄文RLが見える。
13	縄文	土器		口縁	T12	安行3。波頂部の上面に刻み、直下に縦長の貼付文を有する。貼付文には短沈線が加えられる。
14	縄文	土器		口縁	T1	安行3a。波頂部に粘土紐が巻き付く。波頂部内面と粘土紐には短沈線が加えられる。
15	縄文	土器			T5	安行3b。沈線施文後に縄文LRが充填される。
16	縄文	土器		口縁	T5	安行3b。波頂部には左右からそれぞれ粘土紐が巻き付く。波頂部左側の口唇上は平坦な仕上げ。
17	縄文	土器		口縁	T7	安行3。平行沈線間に細沈線が充填される。
18	縄文	土器		口縁	T5	安行3。充填縄文LRが磨り消されている部分がある。
19	縄文	土器	粗製土器	口縁	T1	安行。細線文の下位に横位の緩やかな弧状沈線が施される。
20	縄文	土製品	土器片縁		T11	堀之内。残りは上部のみ。下部欠損か。
21	古墳～奈良	土師器	杯	口縁～体部	T5	非口縁杯。体部は種かくヨコヘラズリ。内面：ナデ。7～8c。
22	古墳～奈良	土師器	壺	口縁～頸部	T5	外面：口唇がわずかに肥厚。
23	古墳～奈良	土師器	壺	口縁～胴部	T12	外面：口唇の上方へのつまみ出し。胴部にタテヘラミガキ。内面：ヨコヘラミガキ。
24	古墳	須恵器	坪身	口縁～体部	T5	外面：口縁部に受けがあるが、口唇の処理が雑。6～7c。
25	古墳～奈良	須恵器	坏蓋	体部～口縁	T11	外面：中央部に回転ヘラズリ。外側はナデ調整。
26	古墳～奈良	須恵器	壺か	口縁～頸部	T5	
27	縄文	石・石製品	磨石		T12	石材不明。上下端に磨痕あり。緑色を呈する特徴的な石材で、石棒（未成品か）の可能性もある。
28	縄文	石・石製品	石皿		T14	石夷明岩。欠損品。磨削面は赤化している。
29	縄文	石・石製品	石皿		T1	石材不明。欠損品。使用面は平滑。
30	縄文	石・石製品	磨石		T5	石材不明。欠損品。磨削面は赤化している。使用面は平坦。
31	縄文	削片類	石核		T1	チャート。多方向からの剥離が全面に及ぶ。
32	縄文	貝製品	ヘラ状貝製品		T5	ハマグリ。腹縁部は磨耗している。

2. 矢作貝塚②

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
2	やはらけいづか 矢作貝塚	確認調査	5千枚堀セ第297号	2023年10月24日～11月14日	87.36㎡ (620㎡)	山下 亮介
		国庫補助	中央区矢作町631-1、658の各一部	宅地造成	和興産業株式会社	

* 調査面積の下段()内は事業面積



第4図 矢作貝塚位置図

(1) 調査に至る経緯

令和5年8月25日付けで和興産業株式会社より宅地造成にかかる文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。令和元年度に実施した試掘調査の結果を基に、堅穴住居跡が確認された対象地北側に対し発掘調査が必要な旨を回答し、確認調査の実施ということで協議が整い、確認調査を実施した。

(2) 調査成果

矢作貝塚は東西に流れる都川を北に臨む標高26mの台地上に立地している。対象地は遺跡範囲の北西部に位置する。

今回の調査は2m×5mのトレンチ4本、2m×3mのトレンチ3本、2m×2mのトレンチ1本の計8か所設定し、遺構等の確認作業を実施した。調査の結果、調査区南側全域で中・近世の造成遺構を検出した。

各トレンチの基本的な層序は、1：表土・耕作土、2：中・近世の造成土からなる。

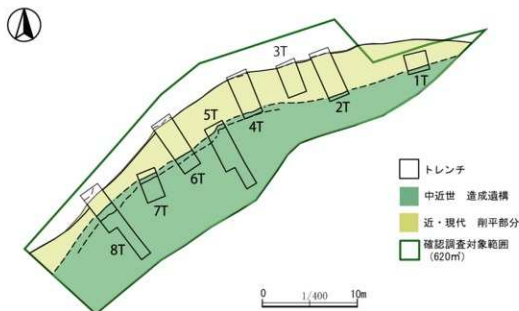
(3) 出土遺物

遺物はすべてのトレンチから出土しており、縄文土器130点、土師器・須恵器22点、磁器1点を数える。縄文土器のうち年代の比定が可能であったのは35点で、内訳は阿玉台式または勝坂式

1点、堀之内式6点、加曽利B式14点、後期安行式7点、晩期安行式7点である。土師器・須恵器は遺物の遺存状態が不良で年代の比定には至っていない。そのほか土玉2点、砥石1点、中世の石鍋（破片）1点（№1）が出土している。

（４）今後の取り扱い

調査区南側全域で中・近世の造成遺構を検出したが、遺構の性格は明らかにできなかった。測量等の記録作業を行い発掘調査を終了した。



第5図 遺構配置図



表3 遺物観察表

№	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	中世	石製品	石鍋	体部	6T	

3. 笹目沢遺跡

	遺跡名	調査種別 事業区分	発掘届文書番号 調査地	調査期間	調査面積	調査担当者
				調査の原因	原因者	
3	あさみざわいせき 笹目沢遺跡	確認調査	5千枚埋せ第370号	2023年12月15日～2024年3月 22日	1,040㎡ (12,000㎡)	白根 義久
		国庫補助 市県費	中央区生実町2721ほか	工業団地造成	エム・ケー株式会社	

* 調査面積の下段()内は事業面積



第6図 笹目沢遺跡位置図

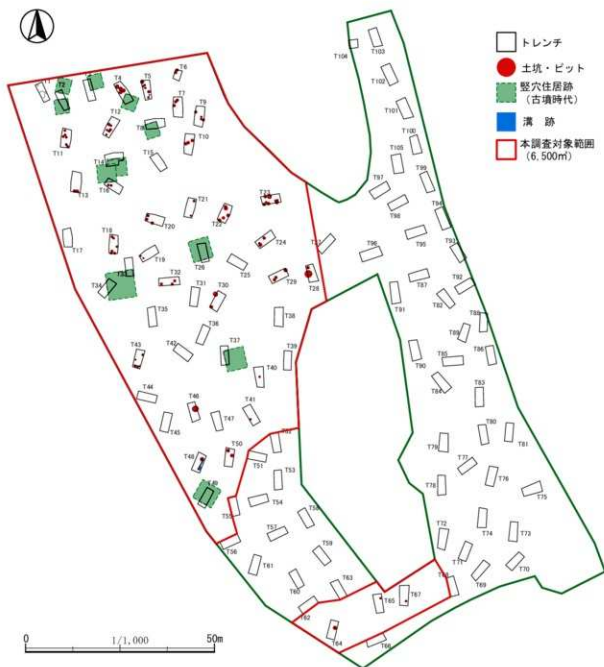
(1) 調査に至る経緯

令和5年9月28日付けでエム・ケー株式会社より産業用地整備にかかる文化財保護法第93条に基づく通知がなされた。事業範囲は170,260㎡と広大で、笹目沢遺跡と兼塚古墳群がほぼ内包されるほか、事業地の一部が種ヶ谷津遺跡に該当する。

笹目沢遺跡においては、平成6年に(財)千葉県文化財センターが実施した主要地方道生実・本納線の建設事に伴う発掘調査で古墳時代後期の竪穴住居跡12軒が検出されている。種ヶ谷津遺跡においては昭和54・56・58年度、平成5・6・10・30年度、令和3・4年度に調査が行われ、古墳時代前期から奈良時代にかけての竪穴住居跡など多数の遺構が検出されている。周辺の調査成果に基づき、本事業地内にも埋蔵文化財の存在が予測されたことから、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当する約39,000㎡の発掘調査が必要な旨を回答した。その後、確認調査の実施ということで協議が整ったことから、対象地のうち笹目沢遺跡に該当する12,000㎡の確認調査を、国際文化財株式会社へ委託して実施した。

(2) 調査成果

笹目沢遺跡は、千葉市南西部にある生実支谷に面する標高約30mの台地上に立地している。今回の調査はトレンチを104か所設定し、遺構等の確認作業を実施した。調査の結果、調査区の北西側および南西側で古墳時代の竪穴住居跡10軒のほか、土坑・ピット101基、溝跡1条を検出した。平成6年度の調査成果と今回の調査成果から、古墳時代の集落が、台地東側の全域に広がっ



第7図 遺構配置図

ていることが確認された。

各トレンチの基本的な層序は、1：表土・耕作土、2：黒褐色土層、暗褐色土層、3：にぶい黄褐色土層（ソフトローム層漸移層）、4 黄褐色土層（ソフトローム）、5 明黄褐色土層（ハードローム）からなる。

(3) 出土遺物

遺物は縄文土器 36 点、土師器 120 点、須恵器 2 点、陶器 1 点が出土した。

縄文土器の年代の内訳は前期 21 点、中期 15 点で、前期は黒浜式土器、中期は前期前半に比定される。

土師器・須恵器の年代は概ね 7～8 世紀に比定される。

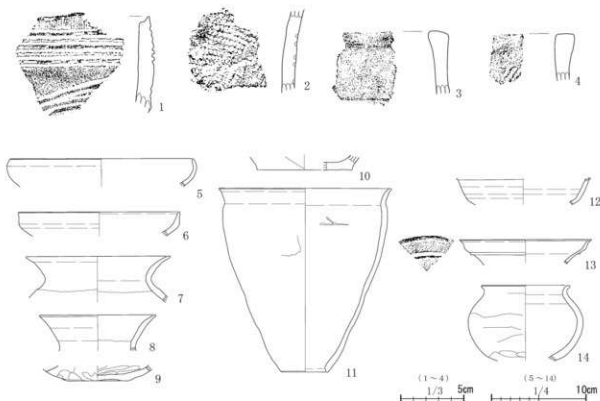


表4 遺物観察表

№	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	縄文	土器	黒灰	口縁	T12	黒灰。縦縞と白色粒子を含む。半截竹管状工具による平行沈線文を施す。
2	縄文	土器	黒灰		T19	黒灰。縦縞と白色粒子を含む。縦縞は多い。羽状縄文を地文として円形竹管文を縦列に施す。
3	縄文	土器	中期前半	口縁	T39	中期前半。白色粒子を含む。破片下端に横走る沈線が残存する。
4	縄文	土器	中期前半	口縁	T46	中期前半。全雲母と白色粒子を含む。縄文RLを施す。
5	奈良・平安	土師器	坏	口縁	T14	7c。両面赤彩。非ロクロ成形。
6	奈良・平安	土師器	坏	口縁	T49 111号遺構	7～8c。非ロクロ成形。
7	奈良・平安	土師器	甕	口縁～胴部	T37 97号遺構	7c。外面：口唇が外反。胴部をヨコナデ。
8	奈良・平安	土師器	甕	口縁	T4 011号遺構	部曲はなだらか。
9	奈良・平安	土師器	甕	底部	T4 011号遺構	両面ともヘラケズリで調整。
10	奈良・平安	土師器	甕	底部	T49 111号遺構	底部をヘラケズリ調整。
11	奈良・平安	土師器	甕	口縁～底部	T49 111号遺構	把手は見られない。甕型型。6c末～7c半ば
12	奈良・平安	須恵器	坏	口縁～底部	T14	受けはあるが口唇部欠損。
13	奈良・平安	須恵器	甕	口縁	T2	中ほどに横位の突帯。その上下に調子の異なる波状沈線。
14	奈良・平安	土師器	甕	口縁～胴部	T4 011号遺構	小型の甕。外面：ヘラケズリ調整。内面：黒色物質が付着。原料容器か。

(4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、調査面積 12,000 m² の約 54% にあたる 6,500 m² が本調査対象範囲となり、発掘調査が必要な旨を回答した。6,500 m² の本調査および残り 27,000 m² の確認調査の実施については事業者と協議中である。



調査区現況



8 トレンチ遺構検出状況



14 トレンチ遺構検出状況



16 トレンチ遺構検出状況



33 トレンチ遺構検出状況



34 トレンチ遺構検出状況



37 トレンチ遺構検出状況



作業風景

4. 西花遺跡①

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
4	西花遺跡 （旧・日比谷のせき）	確認調査	5千枚塚セ第404号	2023年12月19日～12月28日	98.88㎡ (945.94㎡)	山下 亮介
		国庫補助	中央区大森町74等地	集合住宅建設	個人	

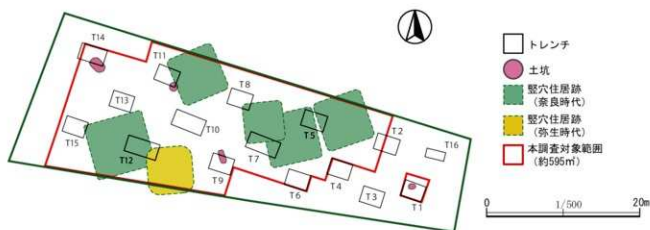
* 調査面積の下段()内は事業面積



第8図 西花遺跡位置図

(1) 調査に至る経緯

令和5年11月1日付けで個人より、集合住宅建築にかかる文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。平成19年度に実施した試掘調査の結果を基に、事業地全域に対し発掘調査が必要な旨を回答し、確認調査の実施ということで協議が整い、確認調査を実施した。



第9図 遺構配置図

(2) 調査成果

西花遺跡は、生実池に流入する小支谷の一つで、現在の市立大森小学校付近を水源とする大蔵寺支谷を南に臨む標高約21mの舌状台地上に立地している。本事業地の西側近接地では、昭和46

年に京葉道路の建設に伴い「大森第2遺跡」として調査が行われ、弥生時代中期から平安時代の竪穴住居跡等が検出されているほか、古墳時代の韓式軟質土器2点が出土している。また、平成28年度には、昭和46年調査区の西側で、古墳時代中期の竪穴住居跡2軒と後期の円筒埴輪を持つ前方後円墳（全長約33m、後円部径約25m、方形部最大幅約20m）が検出されている。

今回の調査は、対象地の地形に合わせた10mのグリッドを設定し、グリッドを基準に2m×2.5mのトレンチを15箇所と1×2.5mのトレンチを1箇所の計16か所を設定し、遺構等の確認作業を実施した。調査の結果、対象地の東端付近で縄文時代の土坑1基を確認し、対象地中央付近で弥生時代の竪穴住居跡1棟と古墳時代の竪穴住居跡5軒・土坑3基を確認した。

各トレンチの基本的な層序は、1：表土・耕作土、2：ソフトローム層からなり、耕作による削平が顕著である。

(3) 出土遺物

縄文土器1点、弥生土器4点、土師器133点、須恵器1点、石製品1点、陶器2点、古銭1点が出土した。

土師器は、古墳時代中期と古墳時代終末期から奈良時代に比定されるものが多い。石製品1点（No.7）は、紡錘車の未成品である。

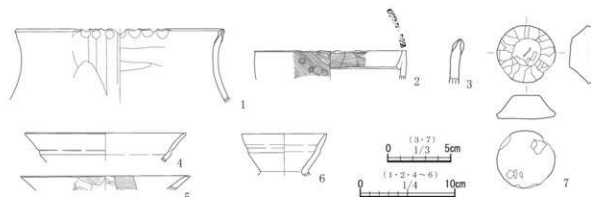


表5 遺物観察表

No.	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	弥生	土器	甕	口縁～頸部	12T	底ノ台。指痕押圧口縁。外面：タテヘラケズリ。内面：ヨコヘラケズリ。
2	弥生	土器	甕	口縁	一括	底ノ台。外面：ナメヘラケズリ。口唇部に縄文。内面：ヨコヘラケズリ。折り返し口縁。
3	弥生	土器	甕	口縁	一括	底ノ台。指痕押圧口縁。
4	古墳	土師器	高杯	口縁	一括	体部に横位の文様。
5	古墳	土師器	高杯or甕	口縁	一括	外面：ハケ目。内面：ヨコヘラケズリ。
6	古墳	土師器	鉢	口縁	10T	口縁。
7	古墳	石製品	紡錘車未成品		12T	滑石製。側面のケズリも完く、中心の孔もない。

(4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、事業面積945.94㎡の約63%にあたる595㎡が本調査対象範囲となったが、盛土造成により保護層が十分に確保できることが確認できたため現状保存とした。



紡錘車未成品 (No. 7)



遺跡現況



1 トレンチ遺構検出状況



5 トレンチ遺構検出状況



7 トレンチ遺構検出状況



11 トレンチ遺構検出状況



12 トレンチ遺構検出状況

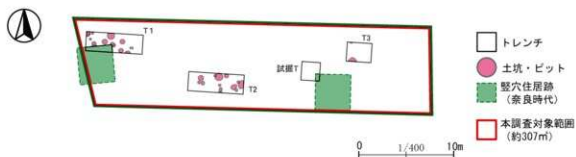
5. 西花遺跡②

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の理由	原因者	
5	にしはないせき 西花遺跡	確認調査	5千教壇セ第513号	2024年4月23日～4月26日	30㎡ (307㎡)	佐藤 洋
		国庫補助	中央区大森町174番地1	集合住宅建設	個人	

* 調査面積の下段()内は事業面積



第10図 西花遺跡位置図



第11図 遺構配置図

(1) 調査に至る経緯

令和6年1月13日付けで個人より、集合住宅建築にかかる文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。令和6年1月26日に実施した試掘調査で、奈良・平安時代の竪穴住居跡や土師器などが検出されたため、発掘調査が必要な旨を回答し、確認調査を実施した。

(2) 調査成果

西花遺跡は、生実池に流入する小支谷の一つで、現在の市立大森小学校付近を水源とする大森寺支谷を南に臨む標高約21mの舌状台地上に立地している。本事業地の西側近接地では、昭和46年に京葉道路の建設に伴い「大森第2遺跡」として調査が行われ、弥生時代中期から平安時代の竪

穴住居跡等が検出されている。また、平成 28 年度には、昭和 46 年調査区の西側で、古墳時代中期の竪穴住居跡 2 軒と後期の前方後円墳（全長約 33m、後円部径約 25m、方形部最大幅約 20m）が検出されている。令和 5 年度には西側近接地で行われた確認調査では、弥生時代の竪穴住居跡 1 軒、古墳時代の竪穴住居跡 5 軒、縄文時代の土坑 1 基のほか、時期不明土坑 3 基を検出した。

今回の調査は、事業地の形状に合わせ 3m × 6m のトレンチを 2 か所、2m × 3m のトレンチを 1 か所、計 3 か所設定し、遺構等の確認作業を実施した。調査の結果、試掘調査の結果と合わせ、奈良・平安時代の竪穴住居跡 2 軒、土坑 9 基、ピット 19 基を検出した。

各トレンチの基本的な層序は、1：表土・耕作土、2：黒色土層、3：黒色土層 4：黄褐色土層（ソフトローム）からなる。

（3）出土遺物

土師器 51 点、須恵器 1 点が出土した。土師器・須恵器はいずれも奈良・平安時代に比定される。

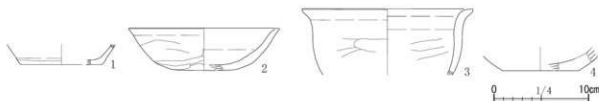


表 6 遺物観察表

No.	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	奈良・平安	土師器	坏	底部	2T	ロクロ成形。
2	奈良・平安	土師器	坏	口縁～底部	1T	体部外面にヨコヘラケズリ。
3	奈良・平安	土師器	壺	口縁～頸部	1T S1	頸部は緩やかに屈曲。口唇部が外反。
4	奈良・平安	土師器	壺	底部	2T	

（4）今後の取り扱い

確認調査の結果、事業地の全域 307 m²が本調査対象範囲となったが、盛土造成により保護層が十分に確保できることが確認できたため現状保存とした。



遺跡現況



試掘トレンチ遺構検出状況



1 トレンチ遺構検出状況



2 トレンチ遺構検出状況

6. 草刈場貝塚

遺跡名		調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
6	くさかりばかいづか 草刈場貝塚	確認調査	4千教壇セ第391号	2024年3月29日～4月2日	10.10㎡ (14.50㎡)	松田 光太郎
		市単費	若菜区貝塚町973-1の一部	倉庫建設	有限会社チバニュータウン開発	

*調査面積の下段()内は事業面積



第12図 草刈場貝塚位置図

(1) 調査に至る経緯

令和4年12月2日付けで有限会社 MK サービスから、倉庫建設に係る文化財保護法第93条の届出が提出され、12月22・23日に試掘坑11ヶ所の掘削による試掘調査を実施した結果、7ヶ所で住居跡や貝層が検出された。事業者と協議の結果、大部分は盛土を行った上での施工となったが、道路に接続する北西部分は掘削が避けられないことが判明した。そこで全事業範囲9,166.47㎡のうち、道路に接続する掘削対象となる事業範囲14.50㎡全域を対象に確認調査を実施した。

(2) 調査成果

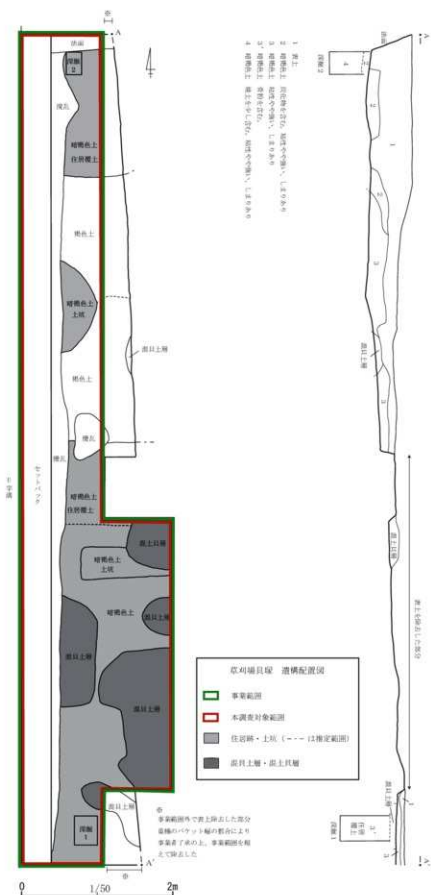
草刈場貝塚は貝塚町貝塚群を構成する一貝塚である。標高約28～31mの台地上に所在する環状貝塚で、今回の調査地は環状分布貝層のやや内側に位置する。調査対象範囲は道路に沿って細長く、南北長は約11.0m、東西長は約1.0mを基本とするが、南側には東西長が2.0mある部分もあった。また調査区内西側には道路に沿うU字溝の掘り方覆土が幅0.4m存在していた。表土掘削は小型の重機で行ったが、調査区の東西長は重機のバケットと同程度の幅しかなく、U字溝の掘り方覆土を含めて重機で掘削すると、U字溝が崩落する危険性があるため、調査区内西側は掘ることが困難であった。そこで事業者の了解を得た上で、U字溝の掘り方覆土は掘らずに残し、調査範囲より東側に拡張して表土を除去した。

表土は北側では厚く最厚で約0.5m存在したが、南側は薄く厚さ約0.05mであった。表土を除去して遺構確認を行った結果、調査区北半は褐色土ないし暗褐色土が存在し、褐色土を掘り込む

土坑が1基存在した。北半の暗褐色土は全体的に深さ0.25 mまで掘り下げたが、まだ下に続くようであったので、深掘り（深掘2）を入れた。すると暗褐色土を深さ0.7 m掘り下げたところで水平なハードルーム面が出現し、この暗褐色土は住居状の掘り込みの覆土であると考えられた。また、調査区南半は混土具層や混貝土層が広く存在し、貝層の周りには土坑状の掘り込み1基と暗褐色土が存在していた。調査区南半の暗褐色土にも深掘り（深掘1）を入れたところ、下底に水平なハードルーム面が現れ、南半にも住居状の掘り込みがあると考えられた。そこで検出遺構は、住居跡2軒、土坑2基とした。

(3) 出土遺物

表土および遺構確認面、遺物包含層（深掘1・2を含む）から縄文時代の遺物が出土した。総点数は土器372点、石器3点（磨石2点、剥片1点）、軽石2点、土製品1点。出土した縄文土器は後期前葉の堀之内2式土器から後期後葉の安行2式土器までの土器であり、その中で主体をなすものは後期中葉～後葉に属するものであった。図示した土器は



第13図 遺構配置図

表土直下の遺構確認面、および深掘1・2から出土したものである。このうち遺構確認面出土遺物は加曽利B2～安行1式土器からなっていた。遺構確認面は遺物包含層の上面に当たり、遺構確

認面出土遺物は遺物包含層上部の時期を示すものと評価できるため、下部に存在している遺物包含層の時期は安行1式期以前と推測される。他方、遺物包含層を一部掘削した深掘2・1を見てみる。北側に設定した深掘2からは加曽利B3式と曾谷式土器が出土している（Na5・10）。この深掘2は住居の覆土の可能性があるが、本遺構より古く位置づけられる遺物包含層では上面より安行1式土器が出土しているので、この掘り込みは加曽利B3式期より新しい可能性がある。また南側に設定した深掘1では堀之内2式、加曽利B1・3式、安行1・2式土器、土製品が出土している（Na1・2・4・14・17・19・23）。各種土器型式が出土しているが、掘削時に土器型式毎の層位的傾向は把握できなかった。土器型式の混在理由の解明は本調査に委ねたい。

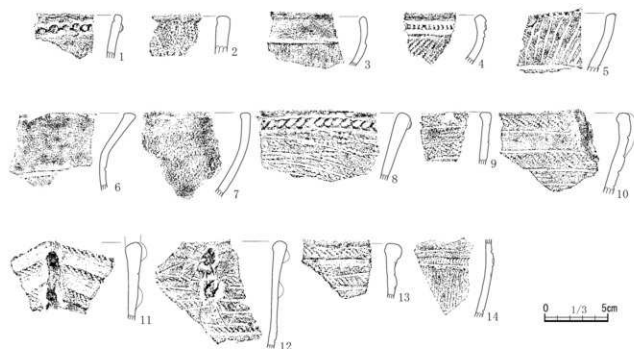
（4）今後の取り扱い

確認調査の結果を経て、事業範囲14.50㎡全域が本調査対象範囲となることを事業者へ通知した。その後協議の結果、埋蔵文化財への影響が避けられない11.0㎡に対して本調査を行うことになり、株式会社ノガミの支援のもと、千葉市教育委員会が主体者となり、5月7日より、本調査を実施した。

確認調査で本調査対象範囲としたが本調査を実施しなかった部分、および、全事業範囲のうちの本調査を行わず、盛土を行うことになった部分は保護層を確保した上で現状保存となっているので、将来別の開発が行われる場合は本調査が必要になることを付記しておく。

また5月16日、事業地南側の境界に壁を作る目的で事業者が表土を寄せる工事を行ったため、職員が出向き、掘削が深く及ばないことを確認した。その際、貝層分布域の表土に散乱している縄文土器を採取した。土器は縄文時代中期末葉および後期前葉の時期であった（Na24～27）。これは地元の茂木幹夫氏の令和3年採集土器が中期末葉から後期初頭を主体としていることと調和的である（西野2023）。本貝塚には後期初頭頃の貝層が存在すると共に、環状貝塚の内側には後期中葉～後葉の遺構があると考えられ、全体として中央窪地型環状集落をなす可能性が捉えられたと言える。

文献 西野雅人 2023「草刈場貝塚の採集資料について」『貝塚博物館紀要』49



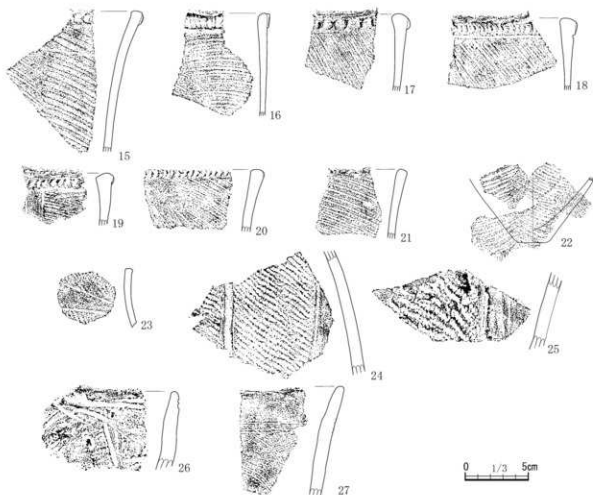


表7 遺物観察表

№	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	縄文	土器		口縁	深壇1	堀之内2。陸縁文。
2	縄文	土器		口縁	深壇1	加曾利B1。単沈縁による斜格子目文。縄文LR。
3	縄文	土器	鉢形土器	口縁	濃横確認面	加曾利B2。
4	縄文	土器		口縁	深壇1	加曾利B3。単沈縁・刻み。縄文LR。
5	縄文	土器		口縁	深壇2	加曾利B3。口唇刻み。沈縁。
6	縄文	土器		口縁	濃横確認面	加曾利B。単沈縁。縄文。
7	縄文	土器		口縁	濃横確認面	加曾利B。縄文LR。
8	縄文	土器	粗製土器	口縁	濃横確認面	加曾利B2またはB3。紐縁文。単沈縁。縄文RL。
9	縄文	土器		口縁	濃横確認面	簀谷。単沈縁・帯縄文RL。磨消縄文。
10	縄文	土器		口縁	深壇2	簀谷。縦長瘤。単沈縁・帯縄文RL。磨消縄文。
11	縄文	土器		口縁	濃横確認面	安行1。波状口縁。縦長瘤。隆帯上の帯縄文RL。単沈縁。磨消
12	縄文	土器		口縁	濃横確認面	安行1。縦長瘤。隆帯上に帯縄文RL。単沈縁。磨消縄文。
13	縄文	土器		口縁	濃横確認面	安行1。隆帯上に帯縄文RL。列点。
14	縄文	土器	粗製土器	深壇1		後期後葉。紐縁文。条縁。
15	縄文	土器	粗製土器	口縁	濃横確認面	後期中葉～後葉。紐縁文。条縁。
16	縄文	土器	粗製土器	口縁	濃横確認面	後期中葉～後葉。紐縁文。条縁。
17	縄文	土器	粗製土器	口縁	深壇1	安行1。紐縁文。条縁。
18	縄文	土器	粗製土器	口縁	濃横確認面	安行1。刻み。単沈縁。条縁。
19	縄文	土器	粗製土器	口縁	深壇1	安行2。紐縁文。単沈縁。条縁。
20	縄文	土器		口縁	濃横確認面	後期後葉。口唇刻み。条縁。
21	縄文	土器	粗製土器	口縁	濃横確認面	後期後葉。条縁。
22	縄文	土器	粗製土器	底部	濃横確認面	後期後葉。条縁。
23	縄文	土製品			深壇1	後期中葉～後葉。単沈縁。磨消縄文RL。
24	縄文	土器			南側表採	加曾利EV。単沈縁。磨消縄文。
25	縄文	土器			南側表採	加曾利EV。陸縁。磨消縄文。
26	縄文	土器		口縁	南側表採	堀之内1。沈縁による懸垂文。縄文。
27	縄文	土器		口縁	南側表採	堀之内1。2～3条1単位沈縁による弧状文。



調査前現況（北から）



遺構確認状況（北から）



遺構確認状況（南から）



具層検出状況（西から）



深掘1断面（西から）



深掘2断面（西から）

7. 五味ノ木遺跡・小山遺跡・萩台前田遺跡

	遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の原因	原因者	
7	ごみのあいせき 五味ノ木遺跡	確認調査	5千教埋セ第501号	2024年2月13日～3月29日	300㎡ (3,000㎡)	佐藤 洋
		市単費	稲毛区萩台町360-5外4筆	宅地造成	大東建託株式会社	
	ごみのあいせき・はぎのたいまのあいせき 小山遺跡・萩台前田遺跡	確認調査	5千教埋セ第501号	2024年5月17日～8月30日	1738.3㎡ (17,800㎡)	千葉 南菜子
		市単費	稲毛区萩台町240ほか	宅地造成	大東建託株式会社	

*調査面積の下段に「内」は事業面積



第14図 五味ノ木・小山・萩台前田遺跡位置図

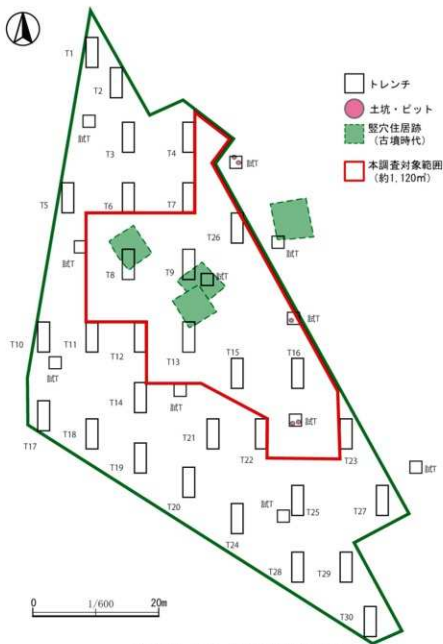
(1) 調査に至る経緯

令和5年10月6日付けで大東建託株式会社より、事業予定地約78,743㎡に対する埋蔵文化財の所在の確認及びその取扱いに関する依頼文が提出された。事業面積が広域であり、周知の埋蔵文化財包蔵地である五味ノ木遺跡・小山遺跡・塚塚遺跡の3遺跡が該当することから、事業地の全域を対象に試掘調査を実施した。その結果、周知の包蔵地範囲外まで遺構分布の広がりが確認されたことから、小山遺跡および隣接する萩台前田遺跡の包蔵地範囲の変更を千葉県教育委員会に報告した(5千教埋セ第496号)。

その後、令和5年12月28日付けで大東建託株式会社より宅地造成にかかる文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。試掘調査の結果に基づき発掘調査が必要な旨を回答し、確認調査の実施ということで協議が整ったことから、令和5年度に五味ノ木遺跡、令和6年度に小山遺跡・萩台前田遺跡の確認調査を、いずれも大成エンジニアリング株式会社に委託して実施した。

(2) 調査成果

五味ノ木遺跡・小山遺跡・萩台前田遺跡は、都川の支流である葭川の本谷谷奥に面した標高約26～29mの台地上に立地している。五味ノ木遺跡の東側隣接地は、昭和57年度に千葉都市モノレー



第15図 五味ノ木遺跡遺構配置図

ルの建設に伴う発掘調査が行われ、後期旧石器時代の石器群、縄文時代中期から後期の竪穴住居跡、古墳時代中期の竪穴住居跡等が発見されている。小山遺跡・萩台前田遺跡での先行調査事例はない。

【五味ノ木遺跡】

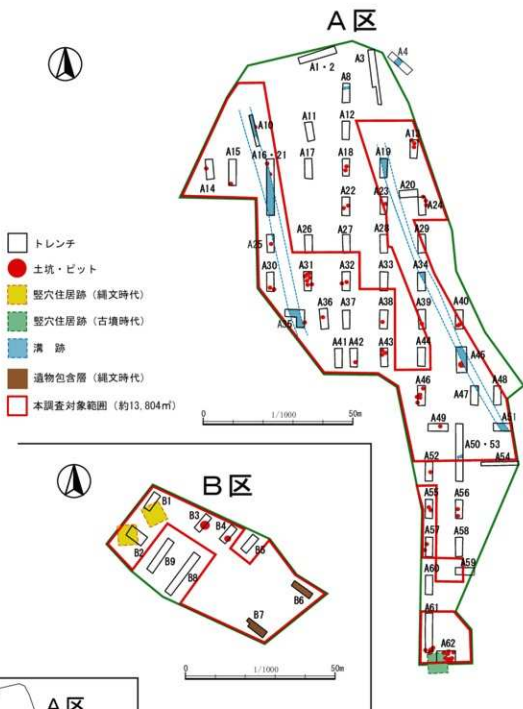
対象地範囲に合わせた任意の10mグリッドを基準に、2m×5mのトレンチを30か所設定し、遺構等の確認作業を実施した。調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡3軒のほか、土坑・ピット3基を検出した。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：黒褐色土層（表土）、2：褐色土層（ソフトローム漸移層）、3：褐色土層（ソフトローム層）からなるが、広範囲で耕作により、ソフトローム層上面まで削平を受けている。

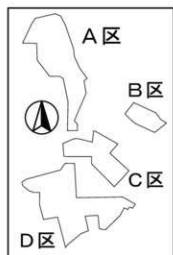
【小山遺跡・萩台前田遺跡】

調査区はA～D区の4区に分け、2m×5mのトレンチをA区62か所、B区9か所、C区32か所、D区55か所の計158か所設定し、遺構等の確認作業を実施した。

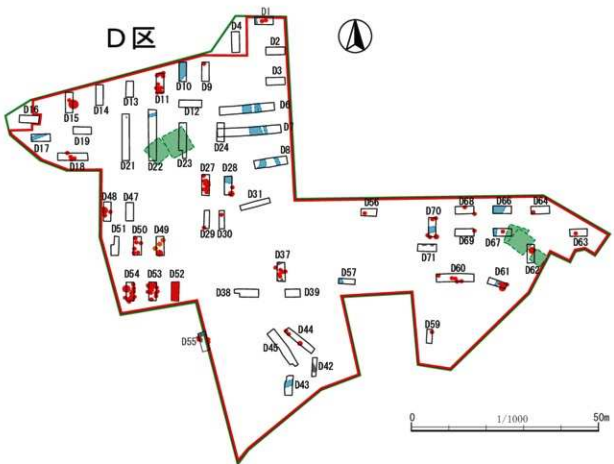
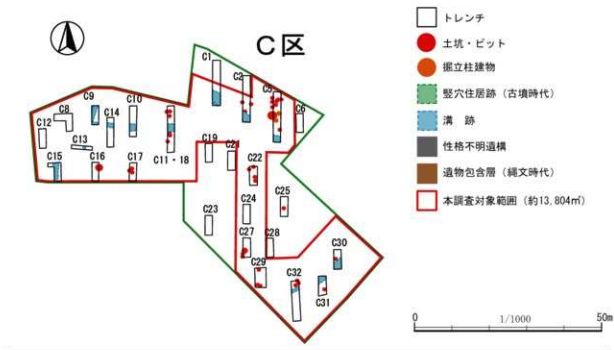
調査の結果、小山遺跡（A～C区）では縄文時代の竪穴住居跡2軒、古墳時代の竪穴住居跡1軒、



第 17 図 小山遺跡・萩台前田遺跡遺構配置図（1）



第 16 図 小山・萩台前田遺跡
遺構配置概略図

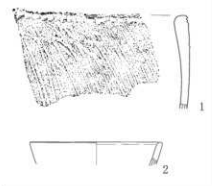


第18図 小山遺跡・萩台前田遺跡遺構配置図(2)

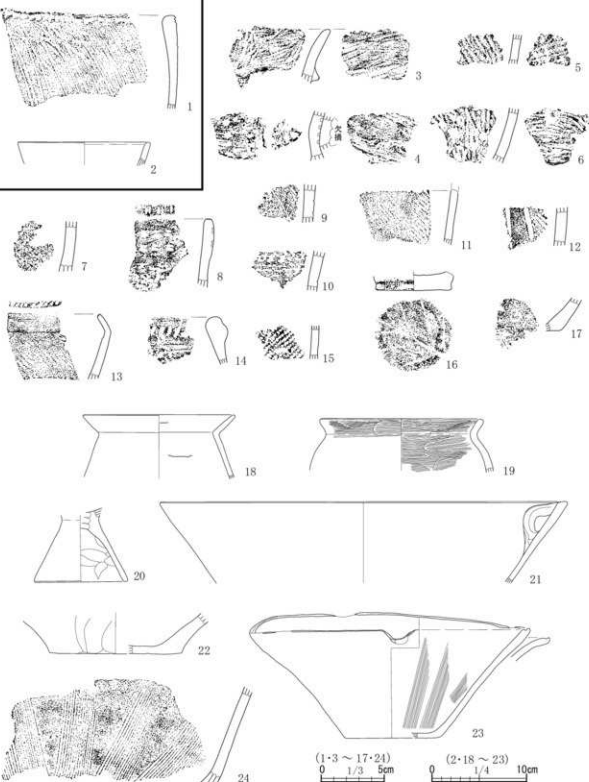
古墳時代から平安時代の竪穴住居跡4軒、土坑42基、ピット37基、中世の溝跡11条を検出した。萩台前田遺跡(D区)では中世の溝12条、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡1軒、土坑56基、ピット59基を検出した。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：暗褐色土層および黒褐色土層(表土)、2：

五味ノ木遺跡



小山遺跡・萩台前田遺跡



暗褐色土層および褐色土層、3：明褐色土層（ソフトローム層）からなる。

両遺跡の確認調査の結果、遺構密度は低いながらも縄文時代および古墳時代～奈良・平安時代の遺構が点在することが明らかとなったほか、小山遺跡と萩台前田遺跡においては、中世と考えられる幅約3m、長さ70m以上の大溝2条をはじめとする区画溝が多数検出され、同台地上では大規模な土地区画や土地整形が行われていたことが明らかになったことが特筆される。

(3) 出土遺物

【五味ノ木遺跡】

遺物の出土は少なく、縄文土器3点、古墳時代から奈良・平安時代の土師器11点、須恵器2点が出土した。図示した縄文土器1点（後期安行式）を除きすべて小片である。

【小山遺跡・萩台前田遺跡】

遺物の出土数が少なく、遺物が出土したトレンチは158か所中32か所のみである。内訳は、縄文土器13点、弥生土器4点、古墳時代の土師器59点、中・近世の土器等234点を数える。

縄文土器の出土は少量であるが、早期後半の条痕文土器、前期前半、前期後半、後期とバラエティに富む。弥生土器と古墳時代の土師器はA区北端部から検出された住居跡からの出土で、土師器の年代は古墳時代中期に比定される。出土した遺物の大部分を中・近世の遺物が占めており、内訳は播鉢破片20点、内耳鍋破片27点、土器161点、陶器20点、磁器6点で、播鉢と内耳鍋の破片が多く出土している。D区D15トレンチから出土した播鉢（№23）は略完形を呈する。内面の節目は凹凸が非常に浅く、搬入品ではなく模倣して製作された在地系の播鉢である。陶磁器は瀬戸焼、美濃、常滑焼が数点確認される。

表8 遺物観察表

№	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	縄文	土器	粗製土器	口縁	1T表土	安行1。条痕を地文として口縁部に角鋸状工具による押引文が二条ある。
2	奈良・平安	土師器	杯	口縁	1T表土	小片。きめの細かい胎土。8cか。
3	縄文	土器		口縁	B3T	茅山上層。縄縷を含む。表裏条痕の土器。隆帯上に貝殻片直文を有すると思われる。
4	縄文	土器			B8T	茅山下層～上層。多量の縄縷と少量の白色粒子を含む。表裏条痕地に隆帯と刺突文を施す。
5	縄文	土器	条痕文土器		A4T	早期後半。微細な白色粒子と微量の縄縷を含む。表裏条痕の土器。
6	縄文	土器	条痕文土器		B3T	早期後半。縄縷と微細な白色粒子を含む。表裏条痕の土器。
7	縄文	土器			B3T	前期前半。縄縷を多量に含む。縄文RLを施す。
8	縄文	土器			A4T	興津。波状貝殻文の土器。口唇・口縁部に半截竹管状工具で刻み・刺突を施す。
9	縄文	土器			A4T	興津。いわゆる磨消貝殻文の土器。縄文Lと波状貝殻文を施す。
10	縄文	土器			A4T	興津。縄文Lと波状貝殻文を施す。
11	縄文	土器		口縁	B4T	前期末～中期初葉。白色粒子を含む。縄文LRを施す。
12	縄文	土器			C12T	後期。垂下する沈部に縄文LRを充填する。
13	縄文	土器		口縁	C24T	後期。口唇上に刻みを有する。縄文RLを施す。
14	縄文	土器	粗製土器	口縁	C5T表土	安行。いわゆる粗製土器の土器。
15	縄文	土器			A4T	時期不明。縄文LRを施す。
16	縄文～弥生	土器		底部	A4T	縄文晩期～弥生前期。側面に凹条文、底部に木葉痕を有する。
17	古墳	土師器		底部	C5T	弥生土器の可能性もあり。
18	古墳	土師器	甕	口縁～頸部	A4T	古墳中期。頸部がくの字状に屈曲。
19	古墳	土師器	甕	口縁～頸部		古墳中期。外面：口唇部ヨコヘラケズリ。内面：ヨコヘラケズリ。
20	古墳	土師器	台付甕	脚部	A4T	古墳中期。円盤台。内面はヘラケズリ調整。
21	中世	土器	内耳鉢	口縁～体部	D52T表土	把手を有する。
22	中世	陶器	播鉢	体部～底部	C30T	体部下端に指による押圧痕。
23	中世	陶器	播鉢	口縁～底部	D15T	15c。灰白色の直煮器状の焼成。在地系。古瀬戸後期の模倣か。
24	中世	陶器	播鉢	体部	D15T	おろし目が残るが明確な使用痕がない。

(4) 今後の取り扱い

確認調査(合計 2,038 m²:五味ノ木遺跡:300 m²、小山遺跡・萩台前田遺跡:1,738 m²)の結果、事業範囲 20,800 m²の内、約 72%に当たる約 14,924 m²(五味ノ木遺跡:1,120 m²、小山遺跡・萩台前田遺跡:13,804 m²)が本調査対象範囲となり、発掘調査が必要な旨を回答した。その後の協議により、工事による埋蔵文化財への影響が避けられない約 7,500 m²について、令和 7 年度に本調査を実施することで、協議が整った。



五味ノ木遺跡 遺跡現況



五味ノ木遺跡 8 トレンチ遺構検出状況



五味ノ木遺跡 9 トレンチ遺構検出状況



五味ノ木遺跡 13 トレンチ遺構検出状況



小山遺跡・萩台前田遺跡 A 区 A16・21 トレンチ遺構検出状況



小山遺跡・萩台前田遺跡 A 区 A35 トレンチ遺構検出状況



小山遺跡・萩台前田遺跡 A区A45 トレンチ遺構検出状況



小山遺跡・萩台前田遺跡 B区B1 トレンチ遺構検出状況



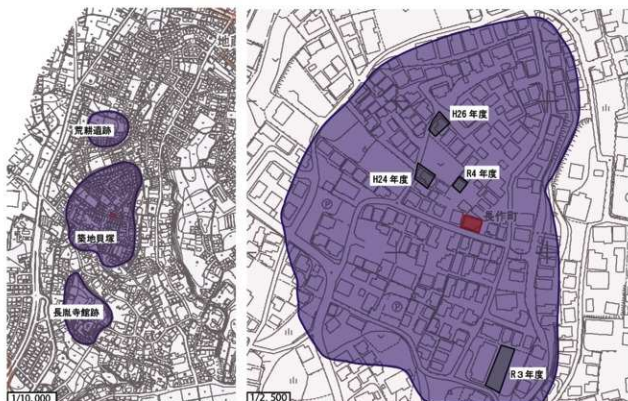
小山遺跡・萩台前田遺跡 C区C31 トレンチ遺構検出状況



小山遺跡・萩台前田遺跡 D区D15 トレンチ遺物出土状況

8. 築地貝塚

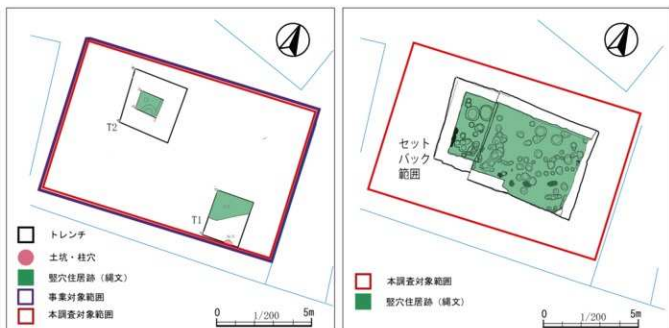
遺跡名	調査種別	発掘届文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
新江崎駅 築地貝塚	確認調査 本調査	5千教埋セ第393号	調査の原因 (確認調査)2023年12月5日 ～12月15日 (本調査R5)2024年2月1日 ～3月21日 (本調査R6)2024年4月26日 ～7月16日	【確認調査】 11㎡ (129.92㎡) 【本調査】 129.92㎡	松田 光太郎
	国庫補助	花見川区長作町344番5の一部	個人住宅	個人	



第19図 築地貝塚位置図

(1) 調査に至る経緯

令和5年10月20日付けで個人から、個人住宅建設に係る文化財保護法第93条の届出が提出された。同場所は同年3月に別事業者から提出された第93条の届出に基づく工事立会の際、遺物が出土していたため、11月17日に、発掘調査（確認調査）の指示を通知した（5千教埋セ第393号）。そしてその後、個人からの確認調査の依頼があった。そこで12月5～15日にT1・T2の2箇所のトレンチからなる確認調査を実施した結果、各トレンチから住居跡・柱穴が検出された。そこで12月20日、事業範囲129.92㎡に対して本調査が必要な旨を通知した（5千教埋セ第485号）。住宅建築に際しては地盤改良を行うため、全域の本調査が必要であったが、南側と東側には車道があり、北側と西側には家屋が近接すること、遺構確認面が地表下約1.0mと深いことから、セットバック範囲を確保し、その面積を差し引いた40㎡に対して実質的な本調査を実施することとなった。また本調査にあたっては、竪穴住居跡が地表下1.5m付近に存在したため、竪穴住居跡発掘時は、調査区壁沿いに幅約0.5mの発掘しない部分を設け、段掘りにした。本調査では狭い事業地内に排土を置くため、全体を西側からⅠ～Ⅲ区に3分割することにし、令和5年度は令和6年2月1日～3月21日の期間でⅠ区13.5㎡を、令和6年度は令和6年4月26日～7月16日の期間でⅡ・Ⅲ区26.5㎡を調査した。



第20図 確認調査の遺構配置図(左)と本調査範囲図(右)

(2) 調査成果

築地貝塚は、花見川水系から延びる支谷に面した標高約23～24mの台地上に立地している。本貝塚は環状貝塚であり、今回の調査地は環状分布貝層の内側に位置する。

・確認調査

事業範囲は東西に長く、東西約12.5m、南北約10.4mある。その中にT1、T2の2箇所のトレンチを掘削した。T1は $2 \times 2.5 \text{ m} = 5 \text{ m}^2$ の規模をもち、T2は $2.8 \times 3 = 8.4 \text{ m}^2$ の規模をもつ。

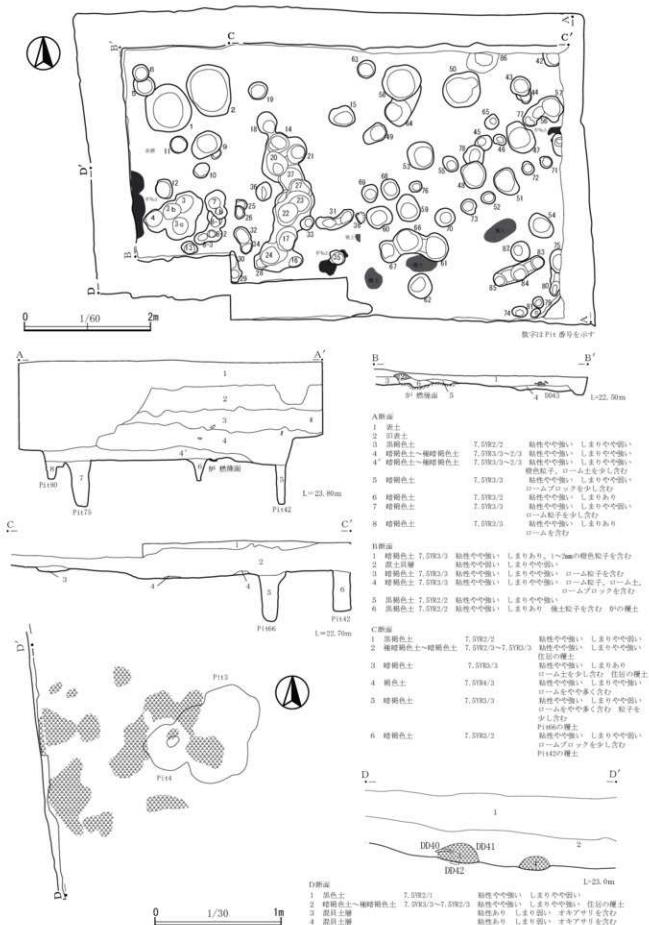
T1はトレンチの南側において地表下1.1mの所でローム層と柱穴1基を検出し、トレンチの北側に住居跡と思われる落ち込みを確認した。T2は遺構確認面が深かったためセットバックを確保し、中心部分をローム層まで掘り、住居跡の床面と大型の柱穴が確認された。確認調査の時点ではT1・T2の住居跡は異なるものと考えた。この結果を受けて、事業対象範囲全域を本調査対象とした。

・本調査

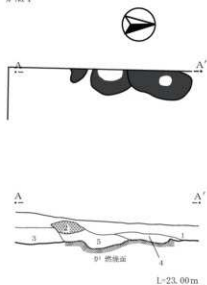
本調査は、確認調査のT1・T2をつなぐような範囲を発掘した。しかし南側は道路が近く危険であったため、T1の大部分はセットバック範囲となり、調査はできなかった。層位は表土、黒褐色土、暗褐色土の順で堆積し、表土は約0.8m、黒褐色土は約0.3～0.4mあった。その下の暗褐色土は堅穴住居跡の覆土に相当する。暗褐色土の層厚は約0.4～0.6mあり、その下半はローム土を含んでいた。この暗褐色土は調査区全域に存在したが、調査区西端に限って、貝層を含んでいた。貝層は1.5m四方の範囲に、10個程のブロックとして散在した(第21図下)。貝層は調査区外西側に延びて存在していることが確認された。貝層の層厚は11～16cm。混貝土層および混土貝層からなっていた。貝層からは獣骨や土器が出土し、時期は後期後葉の曽谷式期である。

暗褐色土の下には全面にわたり、硬化面を伴う床面が存在し、調査区南東隅に堅穴住居跡の壁が確認された。床面には燃焼面を伴う炉が3箇所あり(炉Na1・2・3)、その他床面上に焼土が存在する場所もあった。炉Na1は新旧2つの燃焼面からなっていた(第22図)。炉Na2は柱穴(Pit35)に切られていた。炉Na3は脇に掘り込みを伴っていた。

床面は北東側に下がっている傾向が認められ、床面には多数の柱穴(85基)の存在を確認した(第21図上)。

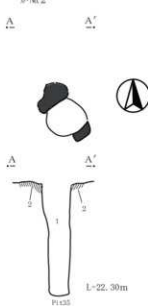


伊No.1



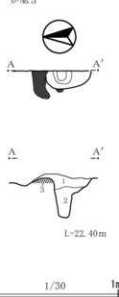
- 1 暗褐色土 7.5YR3/3 粘性やや強い、しまりあり
1~2mm褐色粒子を含む
2 黄土灰層
3 暗褐色土 7.5YR3/3 粘性やや強い、しまりやや弱い
ローム粒子を含む
4 暗褐色土 7.5YR2/2 粘性やや強い、しまりやや強い
炭土、粒子を含む、ローム土
5 暗褐色土 7.5YR2/2 粘性やや強い、しまりあり
炭土、粒子を含む、ローム土

伊No.2



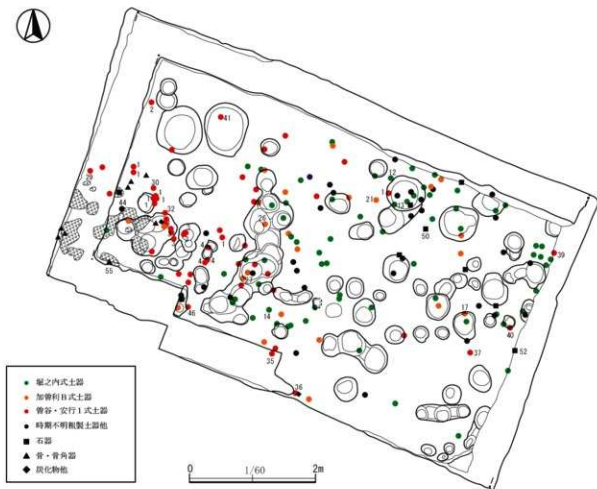
- 1 黒褐色土 7.5YR3/2 粘性やや強い、しまりあり
粘土粒、炭化物、褐色粒子を
少し含む
2 赤褐色土 2.5YR4/6 粘性少し、しまりやや強い
粘土、炭化物、黒褐色土を少し
含む

伊No.3



- 1 黒褐色土 7.5YR3/2 粘性やや強い、しまりあり
粘土、炭化物、ローム粒子を
少し含む
2 黒褐色土 7.5YR3/2 粘性やや強い、しまりやや弱い
ローム土を含む
3 赤褐色土 2.5YR4/6 粘土、炭化物

第22図 炉



図中の数字は遺物Noを示す

第23図 遺物出土状況

柱穴は壁柱穴と考えられるもの(Pit74・79～81)もあるが、床面上に弧状に並ぶもの(Pit 7・8・13・14・16・17・20～24・27・28・37)、列状に並ぶものの複数(Pit43・55・59・65、およびPit51・52・70～73)もあった。床面に極端な段差はなく、明瞭な覆土の違いもなかったため、床面出土の曽谷式土器をもとに、該期の1軒の大型の住居跡として調査した。しかし、遺物出土状況図にあるように、曽谷式土器は調査区西側(弧状柱穴の西側)に多く、東側は曽谷式土器もあるが、堀之内式土器の方が多かった。曽谷式期を中心とした時期の住居跡1軒の存在は確実で、他に堀之内1式期の住居跡があった可能性もあると言える。

(3) 出土遺物

確認調査出土土器は多くはなく(縄文土器158点、軽石1点)、かつ確認調査で出土した大型の破片は本調査出土遺物と同一個体であったため、本調査の遺物を報告する。出土した人工遺物は縄文土器・石器・骨角器・陶製管状土錘である。自然遺物は貝殻や獣骨からなる。自然遺物は、今回は報告しないことにした。出土点数は縄文土器4,938点、石器34点、軽石3点、骨角器1点である。石器の内訳は、打製石斧3点、磨石2点、凹石1点、叩石1点、砥石5点、石鏃3点、石錐1点、石剣1点、剥片17点で、砥石には包丁様砥石を1点含む。表土出土遺物はNo.11の前浦式、層位不明の土器はNo.5～10である。黒褐色土からは遺物は出土していない。今回No.1～4・12以下に図示した遺物は住居跡出土遺物である。No.1～4・12～49は縄文土器、No.50～54は石器、No.55は骨角器である。多くは覆土の暗褐色土出土で、No.3・4・17・37・38は床直出土、No.22・42・48・49は柱穴出土である。住居跡出土の縄文土器は後期初頭、後期前葉の堀之内1・2式、加曽利B1・2・3式、曽谷式、安行1・2式土器からなる。主体は曽谷式土器であるが、安行1式土器も確実に含まれていた。また前項で説明したように堀之内1式土器も少なからず出土しており、その分布は第23図および前項での記載で説明した通りである。

(4) まとめ

今回の報告は径約110mの馬蹄形貝塚である築地貝塚に関して行った本調査の報告である。

本貝塚については1960年、馬蹄形貝塚東側部分で行われた発掘調査で、縄文時代後期前葉の堀之内1式期を主体とする貝層の存在が明らかにされ、2021年、馬蹄形貝塚より南へ約80mの箇所で実施された発掘調査では後期初頭および前葉の土坑が調査されていた。今回、馬蹄形貝塚の内側を発掘したところ、後期後葉の曽谷式を中心とした時期の住居跡が発見されたことは従来になく所見が得られたとすることができる。本貝塚の環状貝層の内側は谷頭につながるように低くなっており、本貝塚が、後・晩期に特有の中央窪地型環状集落になる可能性がでてきたと評価できよう。

文献 早稲田大学考古学研究室1961『築地貝塚、城山・築地2貝塚(千葉市)』『印旛手賀』

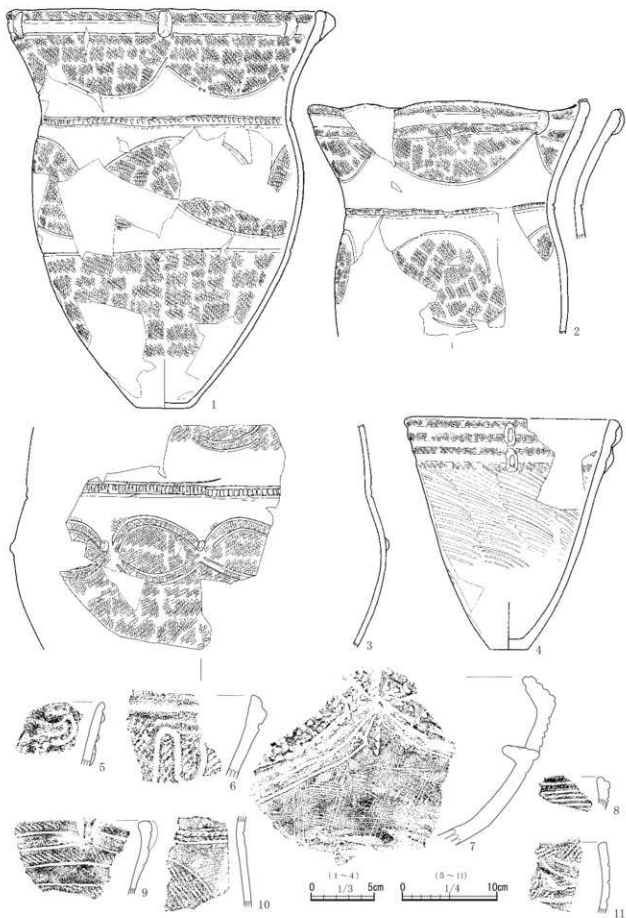
山中悟朗他2021『千葉市築地貝塚 戸建住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』千葉市教育委員会

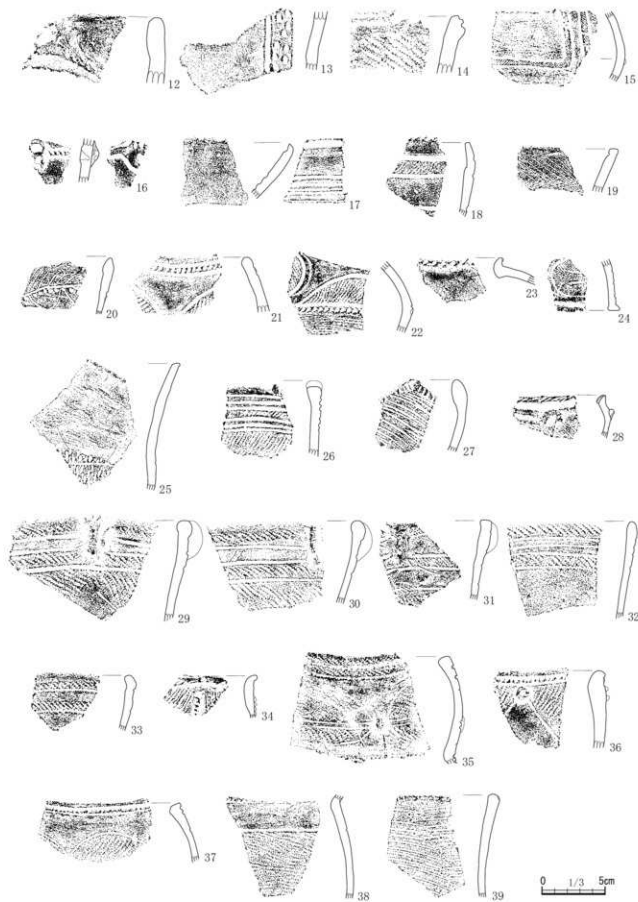
表9 遺物観察表(1)

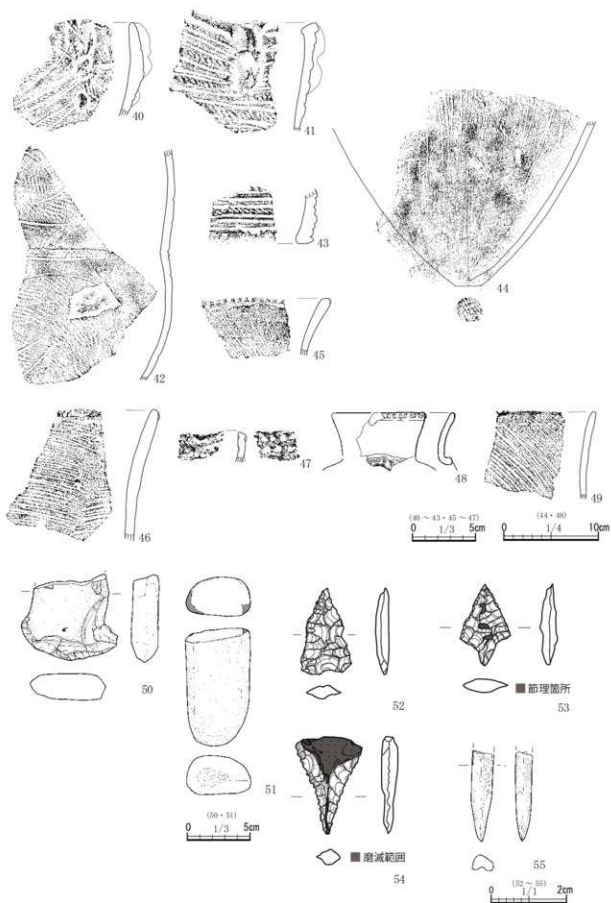
№	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	縄文	土器		口縁～底部	Ⅲ区 住居暗褐色覆土、住居暗褐色覆土、Ⅰ区 住居暗褐色覆土	曽谷。縦長楕。頭部単沈線・列点。隆帯上に帯縄文RL。単沈線による弧線文。磨消縄文。
2	縄文	土器		口縁～胴部	Ⅰ区 住居暗褐色覆土	曽谷。淡灰口縁(5単位)。縦長楕。頭部単沈線・列点。隆帯上に帯縄文RL。単沈線による弧線文。磨消縄文。

表 10 遺物観察表(2)

№	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
3	縄文	土器			住居階褐色土、住居床直	簀谷、頸部単次線・刻み。単次線による弧線文。磨消縄文LR。
4	縄文	土器		口縁～底部	I区 住居階褐色土 I区 I区 住居床直、 II区 住居階褐色土	安行1。縦長瘤。隆帯上に帯縄文RL。磨消縄文。
5	縄文	土器		口縁	III区	後期切端～前葉。隆線・単次線蛇行。
6	縄文	土器		口縁	III区	堀之内1。単次線による垂直文。縄文LR。
7	縄文	土器		口縁	III区	堀之内1。刻突。単次線。条線による菱形文様。
8	縄文	土器		口縁	II区	加曾利B1。刻み。単次線。
9	縄文	土器		口縁	I区	簀谷。縦長瘤。単次線。帯縄文RL。
10	縄文	土器			I区	簀谷。判点。単次線。弧線文。磨消縄文RL。
11	縄文	土器		口縁	II区 表土	前浦2。単次線による弧線文。磨消縄文LR。
12	縄文	土器		口縁	住居階褐色土	後期切端～前葉。隆線による弧状文。
13	縄文	土器			住居階褐色土	堀之内1。単次線。判点。
14	縄文	土器		口縁	II区 住居階褐色土	堀之内1。単次線。縄文RL。
15	縄文	土器	盃形土器		III区 住居階褐色土	堀之内。隆帯・単次線・縄文LRによる方形文様。磨消縄文。
16	縄文	土器			III区 住居階褐色土	堀之内2。8字状貼付文。刻み付き隆線。内面単次線。
17	縄文	土器	浅鉢形土器	口縁	住居床直	加曾利B1。内面単次線。
18	縄文	土器		口縁	I区 住居階褐色土	加曾利B2。口唇部刻み。単次線・帯縄文LR。磨消縄文。
19	縄文	土器		口縁	I区 住居階褐色土	加曾利B2。単次線による矢羽根状文。
20	縄文	土器		口縁	III区 住居階褐色土	加曾利B3。単次線による弧線文・斜線文。刻突。
21	縄文	土器		口縁	住居階褐色土	加曾利B3。単次線。刻み。弧線文。磨消縄文LR。刻突付き瘤。
22	縄文	土器			II区 Ph16	加曾利B3。ソロバン形。単次線による弧線文。磨消縄文LR。
23	縄文	土器	内湾鉢形土器	口縁	III区 住居階褐色土	加曾利B。口唇部刻み。
24	縄文	土器	台	底部	I区 住居階褐色土	加曾利B3。単次線。弧線文。磨消縄文LR。
25	縄文	土器		口縁	III区 住居階褐色土	加曾利B。単次線・縄文LR。
26	縄文	土器		口縁	II区 住居階褐色土	加曾利B。単次線。縄文LR。
27	縄文	土器	粗製土器	口縁	II区 住居階褐色土	加曾利B3。波状口縁。口唇部刻み。条線。
28	縄文	土器		口縁	I区 住居階褐色土	高井東。隆帯上に刻み。逆U字状隆線。細い単次線による斜線文。
29	縄文	土器		口縁	住居階褐色土	簀谷。縦長瘤。単次線。帯縄文RL。
30	縄文	土器		口縁	住居階褐色土	簀谷。単次線。縦長瘤。帯縄文RL。磨消縄文。
31	縄文	土器		口縁	III区 住居階褐色土	簀谷。単次線。縦長瘤。帯縄文RL。磨消縄文。
32	縄文	土器		口縁	住居階褐色土	簀谷。単次線。帯縄文RL。磨消縄文。
33	縄文	土器		口縁	I区 住居階褐色土	簀谷。単次線。帯縄文LR。
34	縄文	土器		口縁	I区 住居階褐色土	簀谷。波状口縁。刻み付き隆線。単次線による斜線文。
35	縄文	土器		口縁	II区 住居階褐色土	簀谷。隆帯上に帯縄文RL。判点。単次線による弧線文。磨消縄文LR。瘤。
36	縄文	土器		口縁	住居階褐色土	簀谷。判点。単次線による弧線文。磨消縄文LR。
37	縄文	土器		口縁	住居床直	簀谷。判点。弧線文。磨消縄文LR。
38	縄文	土器		口縁	III区 住居床直	簀谷。判点・単次線。磨消縄文RL。
39	縄文	土器	粗製土器	口縁	住居階褐色土	簀谷。口唇部刻み。条線。
40	縄文	土器		口縁	住居階褐色土	安行1。波状口縁。縦長瘤。隆帯上に帯縄文RL施文。
41	縄文	土器		口縁	住居階褐色土	波状口縁。縦長瘤。隆帯上に帯縄文RL施文。磨消縄文。
42	縄文	土器			I区 Ph1	安行1。頸部単次線・刻み。単次線による弧線文。磨消縄文LR。瘤。
43	縄文	土器	台	底部	I区 住居階褐色土	安行1。単次線。隆帯上に縄文RL。磨消縄文。
44	縄文	土器	粗製土器	胴部～底部	I区 住居階褐色土	後期中～後葉。粗製土器。縄文RL地に条線文。
45	縄文	土器	粗製土器	口縁	I区 住居階褐色土	後期後葉。口唇部刻み。条線。
46	縄文	土器	粗製土器	口縁	II区 住居階褐色土	後期後葉。条線。
47	縄文	土器		口縁	III区 住居階褐色土	後期。複合口縁。内面に刻突。
48	縄文	土器		口縁	III区 Ph143	加曾利B3。裏形台付土器。口唇部刻み。側面に円形竹管刺突。
49	縄文	土器	粗製土器	口縁	III区 Ph178	後期後葉。条線。
50	縄文	石器	打製石斧		III区 住居階褐色土	
51	縄文	石器	叩石		III区 Ph153	磨面あり。
52	縄文	石器	石鏃		III区 住居階褐色土	石材：黒曜石
53	縄文	石器	石鏃		I区 住居床直	石材：黒曜石 磨面あり。
54	縄文	石器	石鏃		II区	石材：瑤貴頁岩 磨面あり。
55	縄文	骨角器	骨簪			









調査区近景（南から）



確認調査2T（北から）



本調査I区貝層・遺物出土状況（東から）



I区貝層検出状況（東から）



I区炉検出状況（東から）



I区住居跡完掘状況（南から）



II区住居跡完掘状況（南から）



III区住居跡完掘状況（東から）

9. 染谷津遺跡

	遺跡名	調査種別	発掘調査番号	調査期間	調査面積	調査担当者
		事業区分	調査地	調査の理由	原因者	
9	そのやついでき 染谷津遺跡	確認調査	6千数埋せ第44号	2024年6月24日～7月10日	147㎡ (1733㎡)	佐藤 洋
		国庫補助	中央区宮崎町546-13	宅地造成	個人	

* 調査面積の下段()内は事業面積



第24図 染谷津遺跡位置図

(1) 調査に至る経緯

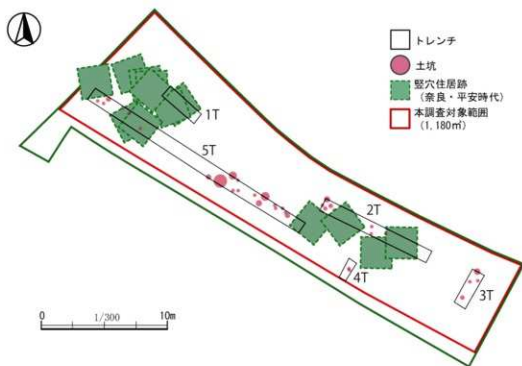
令和6年4月18日付けで個人から宅地造成にかかる文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。試掘調査にて、奈良・平安時代と思われる竪穴住居跡と土坑を検出したため、発掘調査指示で事業者へ通知した。その後、確認調査の実施ということで協議が整い、確認調査を実施した。

(2) 調査成果

染谷津遺跡は、東京湾を望む標高約28mの台地上に立地している。平成5年度に遺跡の北側で発掘調査が行われており、奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒と複数の土坑を検出している。対象地は遺跡範囲の南端部に位置しており、今回の調査では地形等を鑑み、調査区全体の遺構分布状況が確認できるように任意の場所に5か所のトレンチを設定した。

調査の結果、対象地全域で奈良・平安時代の竪穴住居跡14軒、土坑14基、ピット25基を検出し、周知の埋蔵文化財包蔵地範囲よりも広い範囲に遺跡が広がっていることが明らかとなった。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：表土および耕作土、2：暗褐色土層、3：明褐色土層（ソフトローム層）、4：明褐色土層（ハードローム層）からなる。1層は表土・耕作土で0.2～0.4mの厚さを測り、遺構検出面までの深度が浅めである。



第25図 遺構配置図

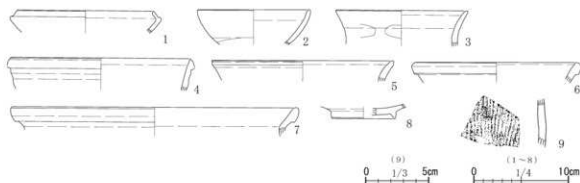


表 11 遺物観察表

No.	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	古墳	須恵器	坏	口縁	1T	古墳後期。受けを有する。7c。
2	奈良・平安	土師器	坏	口縁	5T東	ロクロ成形。体部下端にヘラズリ。
3	奈良・平安	土師器	甕	口縁～胴部	1T	種やかな屈曲の頸部。胴部に押圧痕。
4	奈良・平安	土師器	甕	口縁	1T	折り返しと上方へのつまみ出しを有する。9c。
5	奈良・平安	土師器	甕	口縁	1T	上方へのつまみ出しを有する。8c。
6	奈良・平安	土師器	甕	口縁	5T西	折り返しと上方へのつまみ出しを有する。9c。
7	奈良・平安	土師器	甕	口縁	5T東	折り返しと上方へのつまみ出しを有する。9c。
8	奈良・平安	須恵器	高台坪		4T	
9	奈良・平安	土師器	甕	胴部	5T西端SI	蹴位タタキ目を有する。9c以降。

(3) 出土遺物

遺物は3トレンチを除くすべてのトレンチから出土しており、トレンチ外の表採等も含めて縄文土器13点、土師器22点を数える。縄文土器はほとんどが無文で、年代の判断ができたのは加曽利EⅡ式1点のみである。遺物の主体は土師器であり、8世紀後半～9世紀に比定される。1点のみ6世紀～7世紀に比定される坏片(Na 1)が住居跡に伴い出土しているが、1点のみのため混入の可能性がある。

(4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、事業面積 1,733 m²の約 68%にあたる約 1,180 m²が本調査対象範囲となったが、保護層が十分に確保できることが確認できたため現状保存とした。



遺跡現況



1 トレンチ遺構検出状況



2 トレンチ遺構検出状況



5 トレンチ遺構検出状況

10. 亀甲北遺跡

	遺跡名	調査種別 事業区分	発掘届文書番号 調査地	調査期間	調査面積	調査担当者
				調査の原因	原因者	
10	亀甲北遺跡 きつこうきたいせき	確認調査	6千数埋せ第16号 中央区南生実町1310-2、1310-5	2024年5月27日～6月4日	80㎡ (1,085.29㎡)	佐藤 洋
		国庫補助	中央区南生実町1310-2、1310-5	宅地造成	創建住販株式会社	

* 調査面積の下段()内は事業面積



第26図 亀甲北遺跡位置図

(1) 調査に至る経緯

令和6年3月15日付けで創建住販株式会社から宅地造成にかかる文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。試掘調査にて、古墳時代と思われる竪穴住居跡を検出したため、発掘調査が必要な旨を事業者へ通知した。その後、確認調査の実施ということで協議が整い、確認調査を実施した。

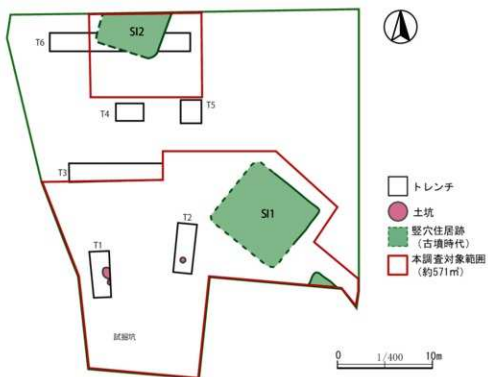
(2) 調査成果

亀甲北遺跡は、村田川の北岸、東西に谷津が入る標高24～27mの舌状台地上に立地している。対象地は遺跡の中央部に位置しており、今回の調査では地形等を鑑み、調査区全体の遺構分布状況が確認できるように任意の場所に6か所のトレンチを設定した。

調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡3軒、土坑2基、ピット1基を検出した。層序は、1：盛土層、2：表土層、3：ソフトローム層、4：ハードローム層からなり、すべてのトレンチでソフトローム層上面まで削平されており、一部ではハードローム層まで削平されていた。

(3) 出土遺物

試掘時に出土した遺物も合わせると、縄文土器5点、土師器108点、須恵器8点が出土した。遺物の主体は土師器であるが年代の判断が可能な破片が少ない。住居跡に伴う遺物の中には古墳時代後期前半に比定される土師器片が含まれる。



第 27 図 遺構配置図

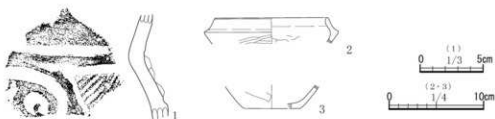


表 12 遺物観察表

№	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	縄文	土器			SI1	加賀利E1～E2。白色粒子を含む。
2	古墳	土師器	杯	口縁	SI1	古墳後部。赤彩。口唇部が厚く、わずかに外反。体部にヘラミガキ。7c。
3	古墳	土師器	壺	底部	SI1	

(4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、事業面積 1,085.29 m²の約 52%にあたる約 571 m²が本調査対象範囲となり、発掘調査が必要な旨を回答した。発掘調査の実施については事業者と協議中である。



遺跡現況



1 トレンチ遺構検出状況



6 トレンチ遺構検出状況



東側住居検出状況

11. 六通貝塚

遺跡名	調査種別	発掘歴文書番号	調査期間	調査面積	調査担当者
六通貝塚	確認調査	6千教理セ第102号	2024年6月4日	8㎡ (110.16㎡)	佐藤 洋
	国庫補助	緑区おゆみ野中央7丁目12-32	個人住宅建設	個人	

* 調査面積の下段()内は事業面積



第28図 六通貝塚位置図

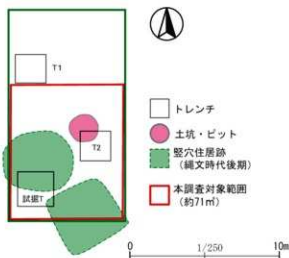
(1) 調査に至る経緯

令和6年5月13日付けで個人より個人住宅建設にかかる文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。令和6年5月27日に実施した試掘調査にて、縄文時代後期の竪穴住居跡が2軒確認されたため、発掘調査が必要な旨を回答し、確認調査を実施した。

(2) 調査成果

六通貝塚は、千葉市の南側を流れる村田川の北岸、通称イズミ谷津の最奥部の標高約45mの台地上に立地している。

昭和24年の東京大学人類学教室の調査で人骨と甕棺が発見されているほか、昭和29年には貝塚中央部の道路工事により貝層北側から人骨が発見され、平成3年から平成10年にかけて(財)千葉県文化財センターにより周辺部の調査が行われている。また、平成14年には貝塚東側の部分調査が行われ、縄文時代中期から晩期の住居跡14軒、土坑18基、屋外炉5基、埋甕3基、獣骨層



第29図 遺構配置図

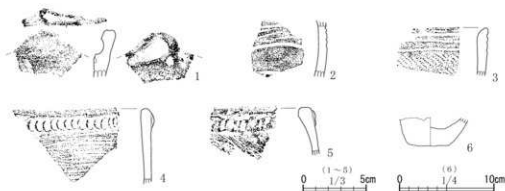


表 13 遺物観察表

No.	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	縄文	土器		口縁	表採	堀之内一加曽利B。口縁部内面に凹縁と円形刺突を施す。
2	縄文	土器			SI2	加曽利B。次層の土器。
3	縄文	土器		口縁	表採	加曽利B。口縁部をめぐる3本の沈線下に縄文RLを施す。
4	縄文	土器	粗製土器	口縁	T2	安行。いわゆる粗縄文の土器。
5	縄文	土器		口縁	一括	安行。いわゆる粗縄文の土器。
6	縄文	土器	粗製土器	底部	調査区一括	後・晩期。無文。

1か所、人骨5体等が発見されている。貝層は東西140m、南北125mの馬蹄形を呈しているが、弧状の貝層が東西に対峙している可能性が高いとされている。

今回の事業地は貝層範囲の西側約25mの地点で、貝層部分には該当せず、2m×2mのトレンチを2か所設定し、遺構等の確認作業を実施した。調査の結果、南側に設定したトレンチから縄文時代の土坑1基が検出され、試掘調査の結果と合わせ、縄文時代後期加曽利B式期の竪穴住居跡2軒、土坑1基が検出された。

各トレンチの堆積から得られた基本的な層序は、1：表土・盛土層、2：暗褐色土層、3：明褐色土層（ソフトローム層）からなる。

(3) 出土遺物

遺物は、縄文土器22点、動物骨1点、礫1点のほか、土師器3点が出土した。縄文土器はいずれも、後期堀之内2式から加曽利B式、後期安行式の範疇に収まるもので、加曽利B式が主体を占める。

(4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、事業面積110.16㎡の約65%にあたる71㎡が本調査対象範囲となったが、保護層が十分に確保できることが確認できたため現状保存とした。



調査風景



試掘トレンチ遺構検出状況



1 トレンチ遺構検出状況



2 トレンチ遺構検出状況

12. 台さら坊遺跡

	遺跡名	調査種別 事業区分	発掘調査番号 調査地	調査期間	調査面積	調査担当者
				調査の原因	原因者	
12	たいさらぼういせき 台さら坊遺跡	確認調査	6千枚塚セ第78号	2024年9月30日～11月11日	382.5㎡ (3879.1㎡)	千葉 南菜子
		市単費	若葉区坂月町323-55、355-2、355-3、 325の一部および323-55～326地先売地	宅地造成		株式会社千葉東建設

* 調査面積の下段()内は事業面積



第30図 台さら坊遺跡位置図

(1) 調査に至る経緯

令和6年3月8日付けで株式会社千葉東建設から宅地造成にかかる文化財保護法第93条に基づく届出が提出された。試掘調査の結果、竪穴住居跡、土坑、ピットを複数検出したため、発掘調査が必要な旨を事業者へ通知した。その後、確認調査の実施ということで協議が整い、確認調査を実施した。

(2) 調査成果

台さら坊遺跡は、都川の支流である坂月川の下流域左岸の標高約33mの台地平坦部に立地している。対象地は遺跡の北東部に位置し、周辺では過去複数回確認調査を実施しており、縄文時代の竪穴住居跡、奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡など多数の遺構を検出している。調査は、対象地範囲に合わせた任意の10mグリッドを基準に2m×2.5mのトレンチを76か所、1m×2.5mのトレンチを1か所の計77か所設定し、遺構等の確認作業を実施した。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡15軒、平安時代の竪穴住居跡13軒、溝跡1条、縄文時代・平安時代の土坑55基、ピット197基を検出した。土坑・ピットは調査区内全域で濃密な分布をみせており、周辺の発掘調査で掘立柱建物跡が検出されていることから、このうち掘立柱建物跡に該当するものが含まれている可能性にも留意したい。トレンチ41からは貝ピットが検出されており、カガミガイ、マテガイ、サルボオが含まれていた。遺物は須恵器片が1点出土しているが年代の比定には至っていない。



第31図 遺構配置図

(3) 出土遺物

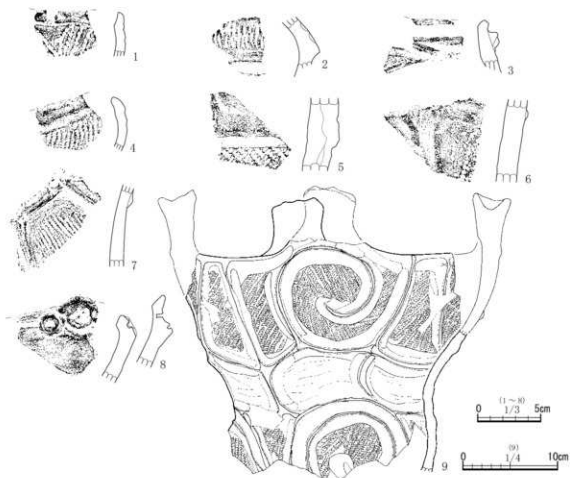
遺物は77トレンチ中67トレンチから出土しており、縄文土器244点、土師器313点、須恵器75点、陶器3点を数える。縄文土器のうち、時期が判明したものは早期ないし前期1点、中期37点、後期3点で中期が大部分を占める。中期の内訳は、阿玉台式前半4点、阿玉台式後半1点、加曽利E式前半7点、加曽利E式前半から後半1点、加曽利E式後半23点で、加曽利EⅢ式が主体となる。ほとんどが小片であるが、トレンチ18の住居跡覆土中から加曽利EⅢ式の土器片がまとまった状態で複数出土し、復元が可能であった(Na9)。そのほか石鏃1点、古銭1点が出土している。

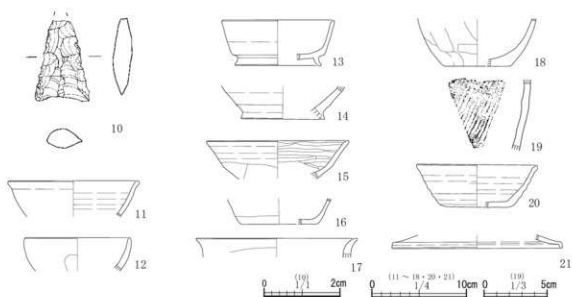
(4) 今後の取り扱い

確認調査の結果、事業面積3,879.10㎡の全域が本調査対象範囲となり、発掘調査が必要な旨を回答した。発掘調査の実施については事業者と協議中である。

表 14 遺物観察表

No.	時代	種類	器種	部位	出土地点	備考
1	縄文	土器		口縁	T3	阿玉台1。白色粒子を含む。押引文の土器。口唇部に焼成後の 剥けが見える。
2	縄文	土器			T28	中期前半。白色粒子を含む。爪形の連続刻突を施す。
3	縄文	土器	キャリバー	口縁	T3	加賀利E。陸縁による磨消縄文L。
4	縄文	土器	キャリバー	口縁	T42	加賀利E。大沈縁による磨消縄文。
5	縄文	土器			T44	加賀利E。厚手の土器。白色粒子を含む。大沈縁による磨消縄文 RL。
6	縄文	土器			T61	加賀利E。厚手の土器。大粒の白色粒子を含む。太めの陸縁と充 填縄文RL。
7	縄文	土器			T9	加賀利E。陸縁による磨消縄文RL。
8	縄文	土器		口縁	T31	壺之内。環状の貼付文は元々8の字状で、下の環状部が欠落した ものと思われる。
9	縄文	土器	キャリバー	口縁～胴部	T18 住居覆土	加賀利EⅢ。波頂部上面は面状に窪む。陸縁とその両側の浅いナ デ状の沈縁による磨消縄文RL。
10	縄文	石器	石楯		T44	チャート。先端部欠損。基部形態は浅い凹基で平基に近い。
11	平安	土師器	坏	口縁～体部	T43	口縁～体部。口唇の外反。9cか。
12	平安	土師器	坏	口縁～体部	T45	椀型坏。ロクロ成形か。
13	平安	土師器	高台坏	口縁～底部	T36	
14	平安	土師器	高台坏	底部	T45	高台調整時のナデが残る。
15	平安	土師器	高台坏	口縁～体部	T48	外面上部がロクロ目。下部はヘラケズリ。内面にヘラミガキ。
16	奈良～平安	土師器	壺	底部	T28	回転ヘラケズリ。
17	平安	土師器	壺	口縁	T29	外面にヘラケズリ。
18	平安	土師器	壺	底部	T36	外面は上部がタテヘラケズリ。下部がヨコヘラケズリ。
19	平安	土師器	壺	胴部	T36	タタキ目を有する。
20	奈良～平安	須恵器	坏身	口縁～底部	T4 住居覆土	ロクロ目が強い。灰白色。8c。
21	奈良～平安	須恵器	坏蓋	体部～口縁	T49	





遺跡現況



18 トレンチ土器出土状況



18 トレンチ遺構検出状況



22 トレンチ遺構検出状況



41 トレンチ貝ビット



74 トレンチ遺構検出状況

報告書抄録

ふりがな	あいぞうぶんのかいようしゅうかいせいぎふうごう									
書名	埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書									
副書名	一令和6年度一									
巻次										
シリーズ名	市内遺跡報告書									
シリーズ番号	第37冊目									
編著者名	佐藤洋・松田光太郎・千葉南菜子・岸本高亮									
編集機関	千葉市教育委員会 千葉市埋蔵文化財調査センター									
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 TEL.043-266-5433									
発行年月日	2025(令和7)年3月24日									
ふりがな 所在地	ふりがな 所在地	コード	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査種別	調査期間	調査 面積	調査理由
										特記事項
遺跡/主な時代/主な遺物										
矢作員塚	中央区矢作町 668, 669, 670, 671, 679, 680	12101	中央-19	35° 35' 23"	140° 08' 15"	確認調査	2023年8月17日 ～9月11日	51㎡	自家用発電設備の建設	
	集落跡/縄文時代/竪穴住居跡、ピット					縄文土器、貝製品、魚骨、煎粉、土師器、須恵器		本調査指示を通知し、令和6年8月9日より千葉市教育施設財団により本調査が実施。		
矢作員塚	中央区矢作町631-1, 658の各一部	12101	中央-19	35° 36' 22"	140° 09' 19"	確認調査	2023年10月24日 ～11月14日	87.36㎡	宅地造成	
	造成跡/中世/造成遺構					縄文土器、土師器、須恵器		遺構を検出し、調査を終了した。		
曾目沢遺跡	中央区生実町2721ほか	12101	中央-131	35° 34' 03"	140° 09' 48"	確認調査	2023年12月15日 ～2024年3月22日	1,040㎡	工業団地造成	
	集落跡/古墳時代/竪穴住居跡、土坑、ピット、溝跡					縄文土器、土師器		工事着手前に本調査が必要な旨を通知。		
西花遺跡	中央区大宮町74番地	12101	中央-74	35° 34' 39"	140° 08' 52"	確認調査	2023年12月19日 ～12月28日	98.88㎡	集合住宅建設	
	集落跡/弥生時代、古墳時代/竪穴住居跡、土坑					縄文土器、弥生土器、土師器、石製品		調査で埋蔵文化財の広がりを確認。協議により、盛土による現状保存。		
西花遺跡	中央区大宮町174番地1	12101	中央-74	35° 34' 37"	140° 08' 55"	確認調査	2024年4月23日 ～4月26日	30㎡	集合住宅建設	
	集落跡/奈良・平安時代/竪穴住居跡、土坑、ピット					縄文土器、弥生土器、土師器、石製品		調査で埋蔵文化財の広がりを確認。協議により、盛土による現状保存。		
草刈場員塚	若葉区員塚町 973-1の一部	12104	若葉-61	35° 37' 33"	140° 08' 39"	確認調査	2024年3月29日 ～4月2日	10.10㎡	倉庫建設	
	貝塚、集落跡/縄文時代/竪穴住居跡、土坑、貝層					縄文土器、石器		令和6年度本調査実施		
五城/木道跡	稲毛区萩台町360-5外4車	12103	稲毛-60	35° 38' 40"	140° 07' 21"	確認調査	2024年2月13日 ～3月29日	300㎡	宅地造成	
	集落跡/古墳時代/竪穴住居跡、土坑、ピット					縄文土器、土師器		工事着手前に本調査が必要な旨を通知。		
小山道跡・ 萩台前田遺跡	稲毛区萩台町240ほか	12103	稲毛-54-59	35° 38' 30"	140° 07' 27"	確認調査	2024年5月17日 ～8月30日	1738.3㎡	宅地造成	
	集落跡/縄文時代、古墳～奈良・平安時代、中世/竪穴住居跡、竪立柱礎物跡、土坑、溝跡					縄文土器、土師器、土師器、陶磁器		工事着手前に本調査が必要な旨を通知。		
築地員塚	花見川区築地町344番5の一部	12102	花見川-30	35° 40' 39"	140° 04' 11"	確認調査 本調査	(確認調査)2023年12月5日 ～12月15日 (本調査)2024年2月1日～ 3月21日 2024年4月26日～7月16日	【確認調査】 11㎡ 【本調査】 129.92㎡	個人住宅	
	貝塚/縄文時代/竪穴住居跡、貝層					縄文土器、石器、骨角器		令和5・6年度本調査実施		
栄谷洋遺跡	中央区宮崎町546-13	12101	中央-63	35° 35' 03"	140° 08' 41"	確認調査	2024年6月24日 ～7月10日	147㎡	宅地造成	
	集落跡/奈良・平安時代/竪穴住居跡、土坑					土師器・須恵器		保護層が確保できることを確認したため現状保存とした。		
亀甲北遺跡	中央区南生実町1310-2, 1310-5	12101	中央-136	35° 33' 32"	140° 09' 16"	確認調査	2024年5月27日 ～6月4日	80㎡	宅地造成	
	集落跡/古墳時代/竪穴住居跡、土坑					土師器		工事着手前に本調査が必要な旨を通知。		
六通員塚	緑区おゆみ野中央7丁目12-32	12105	緑-36	35° 33' 01"	140° 10' 46"	確認調査	2024年6月4日	8㎡	個人住宅建設	
	集落跡/縄文時代/竪穴住居跡、土坑					縄文土器		工事着手前に本調査が必要な旨を通知。協議により、盛土による現状保存。		
若葉区南生実町323-55, 325-2, 325-3, 325-4の一部および323-55～326地先非道						確認調査	2024年9月30日 ～11月1日	382.5㎡	宅地造成	
	集落跡/縄文・平安時代/竪穴住居跡、土坑、ピット、溝跡					縄文土器、土師器、須恵器、陶器		工事着手前に本調査が必要な旨を通知。		

埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書

－令和6年度－

発 行 日 2025（令和7）年3月24日

発 行 千葉県教育委員会

〒260-8730 千葉市中央区千葉港1番1号

電話 043-245-5962（生涯学習部文化財課）

印 刷 株式会社 白樺写真工芸

〒263-0002 千葉市稲毛区山王町102番5号

電話 043-423-1101

